

審査意見への対応を記載した書類（8月）

（目次） 医療技術学部 医療技術学科

1. <養成する人材像と3ポリシーの関係性が不明確>

養成する人材像、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの整合性が不明確である。『「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）, 「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）及び「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）の策定及び運用に関するガイドライン（平成28年3月31日 大学教育部会）』等を参考に、それらの整合性を説明するか、適切に改めること。 (是正事項)・・・3

2. <カリキュラム・ポリシーが不適切>

カリキュラム・ポリシーについては、本来ディプロマ・ポリシーの達成のための教育課程を編成法、教育内容・方法、学修成果の評価方針を定めるものであるが、修得する能力そのものが記載されているほか学修成果の評価に関する記載もないため、適切に改めること。 (是正事項)・・・4

3. <設置の趣旨・必要性が不明確>

新学部設置の目的として、臨床検査学と臨床工学の2領域の知識・技能を習得した人材の必要性をうたっている。同時に、申請書内で2領域は代替可能な業務が多いこと、それぞれの国家資格の取得を前提とするものではないとの記載があるほか、社会的需要についてもそれぞれ単独の必要性が分析されており、2領域を統合した知識・技能をもつ人材を育成する意義が不明確であるため、具体的に説明すること。 (是正事項)・・・6

4. <卒業生に対する社会的需要が不明確>

臨床検査技師は団塊世代の退職等、臨床工学士は人工透析の患者数等を鑑み、在宅医療の必要性等も併せて社会的需要がある旨記載されているが、病院等に行った需要調査では定員以下の採用想定人数となっており、社会的需要の見通しが不明確である。客観的な数値で具体的に説明すること。 (是正事項)・・・8

5. <入試選抜方法が適当か不明確>

一般入試以外に本学科の記載がないほか、各入試選抜方法に評価基準の記載がない上、本学科の選抜方法には変更の可能性がある旨記載がある。入試選抜方法や評価基準等について明確にした上で、各選抜方法で試験科目等に差異があるが、アドミッション・ポリシーで必要とされる能力を、各選抜方法でどのように担保しているか具体的に説明すること。また、同窓子女、子弟推薦入試等については、広く社会からの理解が得られるよう、その必要性や妥当性などについて、具体的に説明すること。 (是正事項)・・・10

6. <臨床検査技師カリキュラム改正に対する対応が不明確>

厚生労働省開催の臨床検査技師学校養成所カリキュラム等改善検討会報告書が4月に公表され、臨床検査技師のカリキュラムについて臨地実習の必要単位数の増加等、関係法令の改正と併せて行われ、2022年4月入学生から適用することとされている。申請内容が本改正に対応しているか又は将来的にどのように対応するか不明確であるので、具体的に説明すること。 (是正事項)・・・18

7. <ダブルライセンスを目指す場合のカリキュラム編成が不明確>

申請書では、臨床検査技師、臨床工学士のダブルライセンスについての記載があるが、以下の点が不明確であるため、具体的に説明し、必要に応じて適切に改めること。

(1) 両資格を取得する場合、現状でも相当数の授業科目の履修が必要となるが、臨床検査技師カリキュラム改正により必要時間数が更に増加する見込みであること等も踏まえると、実現性に懸念がある。両資格を取得する場合の履修モデルを明確にすること。

(2) 2年生前期の GPA が一定以上の者のみダブルライセンスが可能とする記載があるが、高い成績要件を設定することで多数の学生は希望しても授業を履修できない状況となる。両資格を取得する想定学生数を明確にした上で成績要件の設定趣旨や希望がかなわない学生への対応について明確にすること。
(是正事項)・・・19

8. <資格取得に関係する科目の必修・選択の設定が不明確>

資格取得に必要な実習系科目について、いずれの専攻でも選択科目となっている理由が不明確であるため、具体的に説明するか適切に改めること。
(是正事項)・・・21

9. <臨地実習・臨床実習の体制等が不明確>

臨地実習・臨床実習について、実習先の指導者の要件や実習先での学修評価の基準、実習先での感染防止の手順等が不明確である。加えて、臨床検査学と臨床工学の観点を取得した上で臨地実習・臨床実習に臨むことの有益性が述べられているが、実習本体で連携しない理由も不明確であるため、これらの点について具体的に説明すること。
(是正事項)・・・21

10. <卒業研究の体制が不明確>

卒業研究Ⅰ・Ⅱについて、中間報告会、最終報告会の実施方法や評価方法等について不明確である。加えて、シラバスの記載では関係キーワードとして臨床検査学のみが記載されているが、臨床工学の記載がない理由も不明確であるため、これらの点について具体的に説明すること。(是正事項)・・・24

11. <教員組織の将来構想が不明確>

教員の年齢構成が比較的高齢に偏っていることから、教育研究の継続性を踏まえ、若手教員の採用計画など教員組織の将来構想を明確にすること。
(是正事項)・・・25

12. <施設・設備の状況が不明確>

動物室・動物実験室の隣に微生物学・寄生虫学研究室が配置されるなど、研究上の配慮が不明確な施設が見受けられるので、明確にすること。また、危険物質の収納棚等、研究に必要な設備・備品等がある場合は、それらをリスト化して示すこと。
(改善事項)・・・26

13. <記載不備>

学科名称について、ディプロマ・ポリシーでは「医療秘術学科」、教員名簿では「医療時術学科」とされているほか、学則に他学科の学位名称が規定されているが本学科については見当たらないなど、申請書上に誤字・不整合な点が散見されることから、申請書全体の再点検を行った上で適切に改めること。
(是正事項)・・・27

1. <養成する人材像と3ポリシーの関係性が不明確>

養成する人材像、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの整合性が不明確である。『「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)の策定及び運用に関するガイドライン(平成28年3月31日 大学教育部会)』等を参考に、それらの整合性を説明するか、適切に改めること。

(対応)

医療技術専門職者養成に基づく人材像(設置の趣旨等を記載した書類に記載)、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの整合性が明確になるように、『「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)の策定及び運用に関するガイドライン(平成28年3月31日 大学教育部会)』等に従い、医療技術専門職者養成に基づく人材像(設置の趣旨等を記載した書類に記載)、ディプロマ・ポリシーを改めた。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (7ページ)

新	旧
<p>②医療技術専門職者養成に基づく人材像 前項、本学園教育理念および教育趣旨に基づいた医療技術者の養成に加えて、次のような人材養成を目指す。</p> <p>ア. 医療技術専門職者として必要な基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、および高い倫理観を身に付けた人材。 高度化・専門化した医療現場に対応できる高度専門知識・技術に加え、メディカルスタッフに欠かすことのできないコミュニケーション能力や高い倫理観を養成する。</p> <p>イ. 臨床検査学および臨床工学の両分野にわたる知識・技術を身に付け、チーム医療に貢献できる医療技術専門職者。 臨床検査学と臨床工学のふたつの知識と技術を基盤に、病気の発見、診断、治療及び手術、生命の維持まで、あらゆる場面で高度な専門性を発揮することができ、チーム医療を推進する医療技術専門職者を養成する。</p> <p>ウ. 将来に渡って研鑽を積むことが出来る医療技術専門職者。 より善き生の実現に向けて支援を行う医療の本質を理解して、絶えざる自己研鑽に努める姿勢と、自己学習スキルを養成する。</p> <p>エ. 知識・技術を実践に生かすことができる能力(知行合一)を身に付けた医療技術専門職者。 臨床検査学と臨床工学のふたつの知識と技術をもとにして、課題の解決を積極的に図る実践的態度を養成する。</p> <p>オ. 保健医療の諸課題に対する分析し、その解</p>	<p>②医療技術専門職者養成に基づく人材像 前項、本学園教育理念および教育趣旨に基づいた医療技術者の養成に加えて、次のような人材養成を目指す。</p> <p>ア. 医療技術の学術を修めることによる、臨床検査技師・臨床工学技士の統合された有資格者 チーム医療に積極的に関わることのできる、臨床検査学、臨床工学の2つの知識・技術を身につけたメディカルスタッフを養成する。</p> <p>イ. 福祉と連携して、医療福祉に貢献できる医療技術専門職者の養成 本学建学の精神である「仁」四徳の精神を学ぶことで福祉の根底にある精神性を身につけ、本学社会福祉学部との教育連携により福祉との連携において、統合された医療福祉に確かに貢献できる医療技術専門職者を養成する。</p> <p>ウ. 現実の医療技術者に求められる知識・技術と倫理観に対応し得る医療技術専門職者の養成 近年、高度な知識・技術・倫理観を持った上で、業務の共同化が求められており、本学部では、濃厚で圧縮された臨床検査技師・臨床工学技士の統合教育を可能な限り効果的に行い、現実の医療現場のニーズに対応しうる実践能力を養う。</p> <p>エ. 専門職基礎能力に立脚した地域に密着した福祉に強い医療技術専門職者の養成 本学の特徴である地域貢献と社会福祉学部をはじめとする他学部との協調で、医療技術専門職者として、地域の福祉に関心を寄せ、地域の人々や施設で働く人々と共に、福祉貢献に造詣</p>

<p>決手段を発信できる医療技術専門職者。 保健医療の諸課題を、臨床検査学および臨床工学の視点から分析・研究し、学会・論文などで世界に発信できる能力を養成する。</p>	<p>と実践能力を併せ持った人材を養成する。</p>
--	----------------------------

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (4 ページ)

新	旧
<p>医療技術学部医療技術学科DP 本学部では、医療人としての高い倫理観と責任感を持ち、臨床検査学と臨床工学の知識・技術を身につけ、その知識・技術を実践に生かすことができ、日々発展する医療の変化に対応し、チーム医療の一員として活躍できる地域に根差した医療技術者を養成することを人材養成の目的としている。本学部の課程を修了し、以下の資質・能力を備えたものに学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療の中核を担う専門職業人として必要な基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能を身に付けている。 2. 臨床検査学および臨床工学の両分野にわたる知識・技術を身に付けている。 3. 保健医療の担い手として、将来に渡って自らを向上させてゆく意欲と自己開発力を身に付けている。 4. 知識・技術を実践に生かすことができる能力（知行合一）を身に付けている。 5. チーム医療の一員として、高い倫理観に基づき、専門的知識や技術を活用する態度を身に付けている。 6. 保健医療の諸課題に対し、専門的・多面的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討し発信する能力を身に付けている。 	<p>医療技術学部医療秘書学科DP 〈知識理解〉 1. 保健医療の中核を担う専門職業人として必要な基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能を身に付けている。 2. 臨床検査学および臨床工学の両分野にわたる知識・技術を身に付けている。 〈汎用的技能〉 3. 保健医療の担い手として、将来に渡って自らを向上させてゆく意欲と自己開発力を身に付けている。 〈態度・志向性〉 4. 知識・技術を実践に生かすことができる能力（知行合一）を身に付けている。 5. チーム医療の一員として、高い倫理観に基づき、専門的知識や技術を活用する態度を身に付けている。 〈統合的な学習経験と創造的思考力〉 6. 保健医療の諸課題に対し、専門的・多面的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討し発信する能力を身に付けている。</p>

(是正事項) 医療技術学部 医療技術学科

<p>2. <カリキュラム・ポリシーが不適切> カリキュラム・ポリシーについては、本来ディプロマ・ポリシーの達成のための教育課程を編成法、教育内容・方法、学修成果の評価方針を定めるものであるが、修得する能力そのものが記載されているほか学修成果の評価に関する記載もないため、適切に改めること。</p>

(対応)

①カリキュラム・ポリシーを改め、ディプロマ・ポリシーの達成のための「教育課程編成方針」、「教育内容・方法」、「学修成果の評価方針」に分け明確に記載した。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (15 ページ)

新	旧
<p>(2) 医療技術学部のカリキュラム・ポリシー (CP:教育課程編成方針)</p> <p>医療技術学部カリキュラム・ポリシーは次のとおりである。</p> <p>〈教育課程の編成方針〉</p> <p>医療技術学部の人材養成の目的 (ディプロマ・ポリシー) を達成するために、教育課程を「基礎科目」、「専門基礎科目」「専門科目」に区分して編成し、医療人としての必要な素養を養成するとともに、医療技術者として求められる知識と技術を確実に修得させる。</p> <p>〈教育内容・方法〉</p> <p>〈教育内容〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎科目では、医療人として必要な幅広い教養とコミュニケーション能力を養成する科目を配置する。 2. 専門基礎科目では、臨床検査学・臨床工学の基礎的な知識と技能を深めるために重要な科目を配置し、同学問領域の基礎知識を初年次から段階的に学修させる。 3. 専門科目では、基礎科目・専門基礎科目で修得した知識・技術をもとに、専門知識としての医療技術の理論と実際を学修させる。 4. 臨地実習 (臨床検査学専攻)、臨床実習 (臨床工学専攻) では、実践能力の修得とコミュニケーション能力の向上を図る。 5. 卒業研究および総合演習 I では、保健医療の諸課題に対する基礎的研究能力・自己開発力を養成する。 <p>〈教育方法〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生参画型対話型教育を活用する。 2. 講義と演習、実習を連続的に行い、知識と技能の深化・定着を図る。 3. 学習ポートフォリオを用いて個々の学生の学修デザインを支援する。 <p>〈学習成果の評価方針〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. シラバスに学習成果の評価方法を具体的に明示し、学生の成長を促進するための厳格な成績評価を行う。 2. ディプロマポリシーに示した資質・能力を達成状況は、総合的な学習到達度および卒業研究・卒業論文によって評価する。 	<p>(2) 医療技術学部のカリキュラム・ポリシー (CP:教育課程編成方針)</p> <p>医療技術学部カリキュラム・ポリシーは次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 幅広い教養と技能を養成する。(CP1) ② 基礎から臨床にわたる階層的知識を積み上げる教育を行う。(CP2) ③ 臨床検査学および臨床工学の両分野にわたる知識・技術を養成する。(CP3) ④ コミュニケーション能力を高める教育を行う。(CP4) ⑤ 高い倫理観を身につける教育を行う。(CP5) ⑥ 保健医療の担い手として主体的に考え行動する能力を養成する。(CP6) ⑦ 知識・技術を実践に生かすことができる能力 (知行合一) を養成する。(CP7) ⑧ チーム医療の中で、自己の職種の意義を理解し、その活用のために必要な能力を養成する。(CP8) ⑨ 保健医療の諸課題に対する基礎的研究能力を養成する。(CP9)

②ディプロマポリシーと各科目との関連は、カリキュラムマップ (「設置の趣旨等を記載した書類」資料5) に示し、これを「設置の趣旨等を記載した書類」にも記載した。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (15 ページ)

新	旧
<p>また、ディプロマポリシーと各科目の関連は、カリキュラムマップに示した。【資料5：医療技術学部カリキュラム・マップ】</p> <p>本学部では、このカリキュラム・ポリシーに基づいて体系的な教育課程を編成している。具体的には、以下に示す科目区分によって教育課程の編成が体系的であることが分かる。【資料6：医療技術学部カリキュラム・ツリー】</p>	<p>本学部では、こうしたカリキュラム・ポリシーに基づいて体系的な教育課程を編成している。CP1、CP4、CP5、CP6、CP7、CP8には主に「基礎科目」を、CP2には主に「専門基礎科目」と「専門科目」を、CP3、CP9には主に「専門科目」を配置している。具体的には、以下に示す科目区分によって教育課程の編成が体系的であることが分かる。【資料6：医療技術学部カリキュラム・ツリー】</p>

(是正事項) 医療技術学部 医療技術学科

3. <設置の趣旨・必要性が不明確>

新学部設置の目的として、臨床検査学と臨床工学の2領域の知識・技能を習得した人材の必要性をうたっている。同時に、申請書内で2領域は代替可能な業務が多いこと、それぞれの国家資格の取得を前提とするものではないとの記載があるほか、社会的需要についてもそれぞれ単独の必要性が分析されており、2領域を統合した知識・技能をもつ人材を育成する意義が不明確であるため、具体的に説明すること。

(対応) 臨床検査学と臨床工学の2領域の知識・技術を修得した人材の必要性を説明する上で、混乱を招く「代替可能な業務が多い」という説明を除き、必要性を明確に記載した。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (10~11 ページ)

新	旧
<p>③臨床検査学と臨床工学の両方の知識と技術を持った医療従事者の必要性</p> <p>新設学部では、科目履修により臨床検査学と臨床工学の両方の知識・技術を学ぶことが出来て、さらに意欲のある学生は臨床検査技師と臨床工学技士のふたつの国家試験受験資格の取得が可能なカリキュラムとなっている。少子高齢化・多死社会到来による医療従事者の減少、ますます高度化・複雑化する医療現場での医師・看護師不足が危惧される中、チーム医療の推進及び質の高い医療サービス提供を行うには、一人の医療従事者が幅広い知識を持つことが必要と考えられる。採血や検体検査・生理検査などさまざまな検査業務を行う「臨床検査学」と、現代医療に欠かせないハイテク医療機器の操作や管理などを行う「臨床工学」の2つの専門知識と技能を修得することにより、日々高度化する医療現場の最前線で、病気の予防や発見から診断・治療・手術・生命維持・先端医療まで、シームレスに活躍できる人材の養成が可能となり、</p>	<p>③臨床検査学と臨床工学の両方の知識と技術を持った医療従事者の必要性</p> <p>新設学部では、科目履修により臨床検査学と臨床工学の両方の知識・技術を学ぶことが可能なカリキュラムとなっている。少子高齢化・多死社会到来による医療従事者の減少、ますます高度化・複雑化する医療現場での医師・看護師不足が危惧される中、チーム医療の推進及び質の高い医療サービス提供を行うには、一人の医療従事者が幅広い知識を持つことが必要と考えられる。採血や検体検査・生理検査などさまざまな検査業務を行う「臨床検査学」と、現代医療に欠かせないハイテク医療機器の操作や管理などを行う「臨床工学」の2つの専門知識と技能を修得することにより、日々高度化する医療現場の最前線で、病気の予防や発見から診断・治療・手術・生命維持・先端医療まで、シームレスに活躍できる人材の養成が可能となり、より質の高い医療サービスの提供が可能となる。</p> <p>臨床検査技師と臨床工学技士の領域は近く、代替</p>

より質の高い医療サービスの提供が可能となる。

臨床検査技師の職域では、検査機器の高度化や Artificial Intelligence (AI) や Internet of Things (IoT) の導入により検体検査業務は効率化するが、検査結果の解析・報告業務や検査機器管理業務（保守・点検・精度管理）は増えると考えられる。平成 29 年度日本臨床衛生検査技師会会員施設実態調査によると、臨床検査技師の担当業務の比率は臨床生理検査が 17.1% と最も高く【資料 3：臨床検査技師の担当業務および臨床検査技師が保有する他の国家資格】、この検査部門では多くの高度検査機器を使用する。そこで、検査機器管理業務には臨床工学の知識、技術が必要となる。この点を反映し臨床検査技師が保有している他の国家資格としては臨床工学技士が 25.5% と最も多い【資料 3】。また、病院内で欠かせない「医療機器安全管理責任者」は臨床工学技士が 68.2% と最も多いが（日本臨床工学技士会による「平成 26 年臨床工学技士に関する施設実態調査アンケート」）、同様に検査機器を扱う臨床検査技師も医療機器安全管理責任者としての業務を行うことが求められ、そのためには臨床工学の知識が必要である。

臨床工学技士の職域では、手術室、集中治療室、透析室などで医療機器の操作、管理をするのみならず、患者管理において医師を補佐する業務が増えている。特に手術室や集中治療室では臨床検査技師が行う心電図、超音波検査等の知識・技術が必要となっている。2018 年 3 月の日本麻酔科学会「術中運動誘発電位 (motor evoked potentials : MEP) モニタリングガイドライン作成に向けたアンケート調査結果報告書」では、「MEP の術中モニター(刺激や記録)は誰がしていますか?」の問いに、脊椎脊髄手術の場合は臨床検査技師が 28%、臨床工学技士が 24%、脳外科手術の場合は臨床検査技師が 41%、臨床工学技士が 25%、大血管手術の場合は臨床検査技師が 22%、臨床工学技士が 26% と両資格に差はない。また、日本臨床工学技士会による「平成 26 年臨床工学技士に関する施設実態調査アンケート」によると、臨床工学技士が「超音波診断装置を使用したバスキュラー アクセス関連の業務を行っていますか?」の問いに対し、行っているとの回答が 44.1% (有効回答数: 903 施設中 398 施設) であり、臨床工学技士が本来は臨床検査技師が操作すべき超音波診断装置を活用している。また、透析機器安全管理業務では、診療報酬「透析液水質確保加算」取得のため、臨床工学技士が透析液の細菌培養、エンドトキシン測定を日常的に行っており、細菌検査に関する臨床検査学の知識・技術が必要とされている。

可能な業務が多々ある。特に生体機能検査（臨床生理検査）は両領域に共通しており欠くことができない。実際に、平成 29 年度日本臨床衛生検査技師会会員施設実態調査によると、臨床検査技師の担当業務の比率は臨床生理検査が 17.1% と最も高い【資料 3：臨床検査技師の担当業務および臨床検査技師が保有する他の国家資格】。また、臨床検査技師が保有している他の国家資格としては臨床工学技士が 25.5% と最も多い【資料 3】。2018 年 3 月の日本麻酔科学会「術中運動誘発電位 (motor evoked potentials : MEP) モニタリングガイドライン作成に向けたアンケート調査結果報告書」では、「MEP の術中モニター(刺激や記録)は誰がしていますか?」の問いに、脊椎脊髄手術の場合は臨床検査技師が 28%、臨床工学技士が 24%、脳外科手術の場合は臨床検査技師が 41%、臨床工学技士が 25%、大血管手術の場合は臨床検査技師が 22%、臨床工学技士が 26% と両資格に差はない。また、日本臨床工学技士会による「平成 26 年臨床工学技士に関する施設実態調査アンケート」によると、臨床工学技士が「超音波診断装置を使用したバスキュラー アクセス関連の業務を行っていますか?」の問いに対し、行っているとの回答が 44.1% (有効回答数: 903 施設中 398 施設) であり、臨床工学技士が本来は臨床検査技師が操作する超音波診断装置を活用している。よって、臨床検査学と臨床工学を同時に学ぶことは効率的かつ効果的と考える。

臨床検査技師の職域では、検査機器の高度化や Artificial Intelligence (AI) や Internet of Things (IoT) の導入により検体検査業務は効率化するが、検査結果の解析・報告業務や検査機器管理業務は増えると考えられる。そこで、検査機器管理業務には臨床工学の知識、技術が必要となる。また、病院内で欠かせない「医療機器安全管理責任者」は臨床工学技士が 68.2% と最も多いが（日本臨床工学技士会による「平成 26 年臨床工学技士に関する施設実態調査アンケート」）、同様に検査機器を扱う臨床検査技師も医療機器安全管理責任者としての業務を行うことが求められ、そのためには臨床工学の知識が必要である。

臨床工学技士の職域では、手術室、集中治療室、透析室などで医療機器の操作、管理をするのみならず、患者管理において医師を補佐する業務が増えている。特に手術室や集中治療室では臨床検査技師が行える心電図、超音波検査等の知識・技術が必要となっている。また、透析機器安全管理業務では、診療報酬「透析液水質確保加算」取得のため、透析液の細菌培養、エンドトキシン測定が日常的に行われており、細菌検査に関する臨床検査学の知識・技術が必要とされている。

現在「地域包括ケアシステム」構築の一環として在宅医療が推進されている。在宅医療の現場で

さらに、現在「地域包括ケアシステム」構築の一環として在宅医療が推進されている。在宅医療の現場では、臨床検査技師は呼吸機能評価、採血業務、検体採取（喀痰、鼻腔拭い液など）を行っている。また、臨床工学技士は、在宅酸素療法の支援、在宅呼吸器、在宅吸引器、在宅透析や腹膜透析、ペースメーカーや埋め込み型除細動器の管理・調整を行っている。臨床検査技師と臨床工学技士の二つの資格を持った医療人を養成することで、在宅医療現場における人材不足にも対応することが可能となる。

以上の通り、臨床検査学と臨床工学のふたつの知識と技術を持った医療専門職者は、病気の発見、診断、治療及び手術、生命の維持まで、あらゆる場面でより高度な専門性を発揮することができ、病室、病院検査室、手術室、集中治療室、救急室、加えて在宅医療の場などの様々な部門で活躍することにより、医師業務のタスク・シフティング、タスク・シェアリングに大いに役立ち、さらにチーム医療の推進及び医療安全上のリスクの早期発見と減少につながる。また、地震や風水害などの大規模災害時やパンデミック感染症発生時において、医療専門職が不足した場合においても、その活躍が期待される。よって、臨床検査学と臨床工学のふたつの知識と技術を持った医療専門職者を養成することは大きな意義がある。・・・

は、臨床検査技師は呼吸機能評価、採血業務、検体採取（喀痰、鼻腔拭い液など）を行っている。また、臨床工学技士は、在宅酸素療法の支援、在宅呼吸器、在宅吸引器、在宅透析や腹膜透析、ペースメーカーや埋め込み型除細動器の管理・調整を行っている。臨床検査技師と臨床工学技士の二つの資格を持った医療人を養成することで、在宅医療現場における人材不足にも対応することが可能となる。

以上の通り、臨床検査学と臨床工学のふたつの知識と技術を持った医療専門職者は、病気の発見、診断、治療及び手術、生命の維持まで、あらゆる場面でより高度な専門性を発揮することができ、さらにチーム医療の推進及び医療安全上のリスクの早期発見と減少につながる。

(是正事項) 医療技術学部 医療技術学科

4. <卒業生に対する社会的需要が不明確>

臨床検査技師は団塊世代の退職等、臨床工学士は人工透析の患者数等を鑑み、在宅医療の必要性等も併せて社会的需要がある旨記載されているが、病院等に行った需要調査では定員以下の採用想定人数となっており、社会的需要の見通しが不明確である。客観的な数値で具体的に説明すること。

(対応)

アンケート（需要調査）の結果に基づく本学医療技術学部医療技術学科（仮称）の卒業生の採用想定人数の見解を明記した。また、客観的な数値として、独立行政法人労働政策研究・研修機構による職業分類作業部会報告Ⅰの資料を添付し、求人数と求職数の数値を示すとともに、直近の求人件数として臨床検査技師人材バンクと MEJB 臨床工学技士人材バンクの求人数の直近のデータを示し、社会的需要が十分に見込めることを説明した。

新	旧												
<p>アンケート送付先として、病院については近隣の関東甲信越地域に限定し、原則として病床数 100 床以上で臨床検査技師・臨床工学技士が採用されているところに限定して 671 施設を選択して送付し、回答数は 69 施設 (10.3%) という結果だった。回答いただけなかった施設が 602 施設あり、さらに病床数 100 床以下でも臨床検査技師・臨床工学技士が在職する施設は多数あると考えられるほか、地域を関東甲信越以外にも広げれば、さらに潜在的な施設数は増え、定員 80 人に対する採用枠は十分にあると判断している。</p> <p>また、臨床検査技師及び臨床工学技士それぞれの採用想定数については、添付資料の職業分類作業部会報告 I 【独立行政法人労働政策研究・研修機構】 (資料 7) による臨床工学技士 (26 頁) と臨床検査技師 (27 頁) に掲載された新規求人数と新規求職数 (厚生労働省提供の 2017 年度資料により作成) によると臨床検査技師は 6434 人の新規求職者に対して 11144 人の新規求人数があり、実に 4710 人の不足、臨床工学技士も 1784 人の新規求職者に対して 2350 人の新規求人数があり、566 人の不足となっている。この人材不足の状況は現在も改善されていないと考えられ、それを裏付けるデータとして、KJB 臨床検査技師人材バンクと MEJB 臨床工学技士人材バンクの求人数の直近のデータ (令和 2 年 8 月 18 日現在) を調べると、近隣の関東甲信越地域だけでも臨床検査技師は 1419 人、臨床工学技士は 479 人の求人が出されている (次表参照)。このようなことから臨床検査技師・臨床工学技士ともに定員の 80 人を大きく超える採用を想定できるうえ、両資格の技術・知識を兼ね備えた医療専門職者は、チーム医療を推進する医療現場において有為な人材として、今後ますます需要が増すと考えている。</p> <p>表 KJB 臨床検査技師人材バンク求人数と MEJB 臨床工学技士人材バンク求人数 臨床検査技師の求人状況 (8/18) (KJB 臨床検査技師人材バンク) https://www.jinzaibank.com/kjb/ 臨床工学技士の求人状況 (8/18) (MEJB 臨床工学技士人材バンク) https://www.jinzaibank.com/mejb/</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>都道府 県名</th> <th>件数</th> <th>都道府 県名</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>茨城</td> <td>89</td> <td>茨城</td> <td>39</td> </tr> <tr> <td>栃木</td> <td>36</td> <td>栃木</td> <td>32</td> </tr> </tbody> </table>	都道府 県名	件数	都道府 県名	件数	茨城	89	茨城	39	栃木	36	栃木	32	
都道府 県名	件数	都道府 県名	件数										
茨城	89	茨城	39										
栃木	36	栃木	32										

群馬	46	群馬	22
埼玉	199	埼玉	76
千葉	145	千葉	56
東京	532	東京	164
神奈川	281	神奈川	65
新潟	34	新潟	7
山梨	12	山梨	5
長野	45	長野	13
合計	1419	合計	479

(添付資料) 「資料7 職業分類作業部会報告 I 【独立行政法人労働政策研究・研修機構】」

(是正事項) 医療技術学部 医療技術学科

5. <入試選抜方法が適当か不明確>

一般入試以外に本学科の記載がないほか、各入試選抜方法に評価基準の記載がない上、本学科の選抜方法には変更の可能性がある旨記載がある。入試選抜方法や評価基準等について明確にした上で、各選抜方法で試験科目等に差異があるが、アドミッション・ポリシーで必要とされる能力を、各選抜方法でどのように担保しているか具体的に説明すること。また、同窓子女、子弟推薦入試等については、広く社会からの理解が得られるよう、その必要性や妥当性などについて、具体的に説明すること。

(対応)

【具体的選抜方法と、資質・能力との関係】の項目において、本学科の各入試選抜（学校推薦型入試・総合型選抜入試・一般選抜入試・特別入試）の実施方法について説明した。評価基準については【求める人材像】と【入学者選抜の基本方針】と【具体的選抜方法と、資質・能力との関係】に基づき定められている旨を明記し、【求める人材像】【入学者選抜の基本方針】【具体的選抜方法と、資質・能力との関係】について詳しく追記した。また、本学科の選抜方法には変更の可能性がある旨の記載については、文部科学省による審査の結果、変更のあり得るという趣旨で書いたものであり、この部分は削除した。各アドミッションポリシーで必要とされる能力を各選抜方法でどのように担保するかを明らかにするために、「アドミッション・ポリシーと入学者選抜における評価項目」の表を加えた。あわせて、「学力の3要素と入学者選抜における評価項目」の表も加えた。同窓子女・子弟入試の必要性・妥当性について詳しく趣旨説明を加えた。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (29～38 ページ)

新	旧
<p>(2) 入学者選抜方法 群馬医療福祉大学・短期大学部では福祉、医療にかかわる人材養成を行っている。従来の価値観や能力にとらわれない多様な資質を有する学生を受け入れることが重要であると考え、「学校推薦型入試」「総合型選抜入試」「一般</p>	<p>(2) 入学者選抜方法 群馬医療福祉大学・短期大学部では福祉、医療にかかわる人材養成を行っている。従来の価値観や能力にとらわれない多様な資質を有する学生を受け入れることが重要であると考え、「学校推薦型入試」「総合型選抜入試」「一般</p>

選抜入試」「特別入試」を全学部で実施する。
 上記のアドミッション・ポリシーに沿った【求める人材像】と次に説明する【入学者選抜の基本方針】【具体的選抜方法と、資質・能力との関係】の記載に基づき「評価基準」としている。
 アドミッション・ポリシーに基づいて、多様な人材を確保するための入学者選抜試験が実施されるが、入学者選抜の基本方針は次の通りである。

【入学者選抜の基本方針】

本学の入試では、高等学校等で主体的に学ぶ態度と能力を身に付けた将来の医療福祉従事者として活躍したいという意欲的な人や、地域において、連携・協働の視点に立ち医療・福祉の向上に貢献できる優れた人材を、より多様に集積させることを目指している。

そのため本学の実施するすべての入試（大学入学共通テスト利用型入試を除く）において多面的・総合的な評価をする観点から面接試験を実施している。福祉、医療の仕事は対人援助が中心となり、患者、利用者および関係職員との人間関係、そのために必要なコミュニケーション能力、多様な人々と協働して学ぶ態度、姿勢等を評価する。

一般選抜の学科試験においては「知識・教養」「思考力・判断力・表現力」を評価するためすべての科目において記述式問題を出題する。

各アドミッションポリシーで必要とされる能力を各選抜方法でどのように担保するかは次の表「アドミッション・ポリシーと入学者選抜における評価項目」のとおりである。

表「アドミッション・ポリシーと入学者選抜における評価項目」

	選抜区分	評価項目
調査書		※学部APは（医療技術学部医療技術学科アドミッションポリシー）、※検査APは（臨床検査学専攻アドミッションポリシー）、※工学APは（臨床工学専攻アドミッションポリシー）のこと。
	総合型入試 学校推薦型入試 一般選抜入試 大学入学共通テスト利用型	学部AP 1. 大学で教養と専門的知識を修得するために必要な基礎学力を備えている。 学部AP 2. 特別活動及び課外活動を通して身に付けたコミュニケーション能力がある。 学部AP 3. 高い倫理観を持っている。 学部AP 4. 主体的に学ぶ姿勢を持っている。 学部AP 5. 臨床検査学・臨床工学に関心がある。 学部AP 7. 保健医療の諸課題に関心がある。
		検査AP 1. さまざまな視点で物事をとらえ考察するために必要な教養と基礎学力を有する。特に、基礎的な自然科学（生物、化学、物理、数学）の知識を持つ。 検査AP 2. 相手の立場を尊重し、関わりを通して双方ともにより良い成果をもたらすコミュニケーション能力を持つ。 検査AP 3. 高い倫理観を持ち、人の痛みや心情を分かるうと努力できる。 検査AP 4. 旺盛な探求心を持ち、主体的に自ら進んで学び、気づき、考え、向上心を持って物事に取り組める。 検査AP 5. 臨床検査技師に興味を持ち、その専門性修得への意欲が強くあるとともに、臨床検査学を学ぶことで、保健・医療・福祉分野に貢献する意思を持つ。 検査AP 7. 日本語・外国語での文章読解力と表現力を持ち、自分の考えを論理的に他者に伝える力を備えている。 検査AP 8. 保健医療の諸課題に関心があり、その解決の意欲をもっている。

選抜入試」「特別入試」を全学部で実施する。
 アドミッション・ポリシーに基づいて、多様な人材を確保するための入学者選抜試験が実施されるが、入学者選抜の基本方針は次の通りである。

【入学者選抜の基本方針】

本学の入試では、高等学校等で主体的に学ぶ態度と能力を身に付けた将来の医療福祉従事者として活躍したいという意欲的な人や、地域において、連携・協働の視点に立ち医療・福祉の向上に貢献できる優れた人材を、より多様に集積させることを目指している。

そのため本学の実施するすべての入試（大学入学共通テスト利用型入試を除く）において多面的・総合的な評価をする観点から面接試験を実施している。福祉、医療の仕事は対人援助が中心となり、患者、利用者および関係職員との人間関係、そのために必要なコミュニケーション能力、多様な人々と協働して学ぶ態度、姿勢等を評価する。

		<p>工学AP 1. さまざまな視点で物事をとらえ考察するために必要な教養と基礎学力を有する。特に、物理の知識および数学的処理能力をはじめ、基礎的な生物、化学の知識を有する。</p> <p>工学AP 2. 相手の立場を尊重し、関わりを通して双方ともにより良い成果をもたらすコミュニケーション能力を持つ。</p> <p>工学AP 3. 高い倫理観を持ち、人の痛みや心情を分かろうと努力できる。</p> <p>工学AP 4. 旺盛な探求心を持ち、主体的に自ら進んで学び、気づき、考え、向上心を持って物事に取り組める。</p> <p>工学AP 5. 臨床工学技士に興味を持ち、その専門性修得への意欲が強くとともに、臨床工学を学ぶことで、保健・医療・福祉分野に貢献する意思を持つ。</p> <p>工学AP 7. 日本語・外国語での文章読解力と表現力を持ち、自分の考えを論理的に他者に伝える力を備えている。</p> <p>工学AP 8. 保健医療の諸課題に関心があり、その解決の意欲をもっている。</p>	
志望理由書	総合型選抜入試 学校推薦型入試	<p>学部AP 3. 高い倫理観を持っている。</p> <p>学部AP 4. 主体的に学ぶ姿勢を持っている。</p> <p>学部AP 5. 臨床検査学・臨床工学に関心がある。</p> <p>学部AP 6. 福祉・医療における幅広い分野の職種と連携し、チーム医療の一員として現場で貢献したいという意欲がある。</p> <p>学部AP 7. 保健医療の諸課題に関心がある。</p> <p>検査AP 3. 高い倫理観を持ち、人の痛みや心情を分かろうと努力できる。</p> <p>検査AP 4. 旺盛な探求心を持ち、主体的に自ら進んで学び、気づき、考え、向上心を持って物事に取り組める。</p> <p>検査AP 5. 臨床検査技師に興味を持ち、その専門性修得への意欲が強くとともに、臨床検査学を学ぶことで、保健・医療・福祉分野に貢献する意思を持つ。</p> <p>検査AP 6. チーム医療の重要性を理解している。</p> <p>検査AP 7. 日本語・外国語での文章読解力と表現力を持ち、自分の考えを論理的に他者に伝える力を備えている。</p> <p>検査AP 8. 保健医療の諸課題に関心があり、その解決の意欲をもっている。</p>	
	活動報告書	<p>学部AP 3. 高い倫理観を持ち、人の痛みや心情を分かろうと努力できる。</p> <p>工学AP 4. 旺盛な探求心を持ち、主体的に自ら進んで学び、気づき、考え、向上心を持って物事に取り組める。</p> <p>工学AP 5. 臨床工学技士に興味を持ち、その専門性修得への意欲が強くとともに、臨床工学を学ぶことで、保健・医療・福祉分野に貢献する意思を持つ。</p> <p>工学AP 6. チーム医療の重要性を理解している。</p> <p>工学AP 7. 日本語・外国語での文章読解力と表現力を持ち、自分の考えを論理的に他者に伝える力を備えている。</p> <p>工学AP 8. 保健医療の諸課題に関心があり、その解決の意欲をもっている。</p>	
事前課題	総合型選抜入試 (課題チャレンジ型)	<p>学部AP 2. 特別活動及び課外活動を通して身に付けたコミュニケーション能力がある。</p> <p>学部AP 3. 高い倫理観を持っている。</p> <p>学部AP 4. 主体的に学ぶ姿勢を持っている。</p> <p>学部AP 7. 保健医療の諸課題に関心がある。</p> <p>検査AP 2. 相手の立場を尊重し、関わりを通して双方ともにより良い成果をもたらすコミュニケーション能力を持つ。</p> <p>検査AP 3. 高い倫理観を持ち、人の痛みや心情を分かろうと努力できる。</p> <p>検査AP 4. 旺盛な探求心を持ち、主体的に自ら進んで学び、気づき、考え、向上心を持って物事に取り組める。</p> <p>検査AP 7. 日本語・外国語での文章読解力と表現力を持ち、自分の考えを論理的に他者に伝える力を備えている。</p> <p>検査AP 8. 保健医療の諸課題に関心があり、その解決の意欲をもっている。</p> <p>工学AP 2. 相手の立場を尊重し、関わりを通して双方ともにより良い成果をもたらすコミュニケーション能力を持つ。</p> <p>工学AP 3. 高い倫理観を持ち、人の痛みや心情を分かろうと努力できる。</p> <p>工学AP 4. 旺盛な探求心を持ち、主体的に自ら進んで学び、気づき、考え、向上心を持って物事に取り組める。</p> <p>工学AP 7. 日本語・外国語での文章読解力と表現力を持ち、自分の考えを論理的に他者に伝える力を備えている。</p> <p>工学AP 8. 保健医療の諸課題に関心があり、その解決の意欲をもっている。</p>	
		<p>学部AP 3. 高い倫理観を持っている。</p> <p>学部AP 4. 主体的に学ぶ姿勢を持っている。</p> <p>学部AP 5. 臨床検査学・臨床工学に関心がある。</p> <p>学部AP 6. 福祉・医療における幅広い分野の職種と連携し、チーム医療の一員として現場で貢献したいという意欲がある。</p> <p>学部AP 7. 保健医療の諸課題に関心がある。</p>	

		<p>検査AP 3. 高い倫理観を持ち、人の痛みや心情を分かろうと努力できる。</p> <p>検査AP 4. 旺盛な探求心を持ち、主体的に自ら進んで学び、気づき、考え、向上心を持って物事に取り組める。</p> <p>検査AP 5. 臨床検査技師に興味を持ち、その専門性修得への意欲が強くあるとともに、臨床検査学を学ぶことで、保健・医療・福祉分野に貢献する意思を持つ。</p> <p>検査AP 6. チーム医療の重要性を理解している。</p> <p>検査AP 7. 日本語・外国語での文章読解力と表現力を持ち、自分の考えを論理的に他者に伝える力を備えている。</p> <p>検査AP 8. 保健医療の諸課題に関心があり、その解決の意欲をもっている。</p>
		<p>工学AP 3. 高い倫理観を持ち、人の痛みや心情を分かろうと努力できる。</p> <p>工学AP 4. 旺盛な探求心を持ち、主体的に自ら進んで学び、気づき、考え、向上心を持って物事に取り組める。</p> <p>工学AP 5. 臨床工学技士に興味を持ち、その専門性修得への意欲が強くあるとともに、臨床工学を学ぶことで、保健・医療・福祉分野に貢献する意思を持つ。</p> <p>工学AP 6. チーム医療の重要性を理解している。</p> <p>工学AP 7. 日本語・外国語での文章読解力と表現力を持ち、自分の考えを論理的に他者に伝える力を備えている。</p> <p>工学AP 8. 保健医療の諸課題に関心があり、その解決の意欲をもっている。</p>
ブ レ イ ン テ ー シ ヨ ン	総 合 型 選 抜 入 試 (課 題 フェ レン ジ 型)	<p>学部AP 5. 臨床検査学・臨床工学に関心がある。</p> <p>学部AP 6. 福祉・医療における幅広い分野の職種と連携し、チーム医療の一員として現場で貢献したいという意欲がある。</p> <p>学部AP 7. 保健医療の諸課題に関心がある。</p>
		<p>検査AP 5. 臨床検査技師に興味を持ち、その専門性修得への意欲が強くあるとともに、臨床検査学を学ぶことで、保健・医療・福祉分野に貢献する意思を持つ。</p> <p>検査AP 6. チーム医療の重要性を理解している。</p> <p>検査AP 7. 日本語・外国語での文章読解力と表現力を持ち、自分の考えを論理的に他者に伝える力を備えている。</p> <p>検査AP 8. 保健医療の諸課題に関心があり、その解決の意欲をもっている。</p>
		<p>工学AP 5. 臨床工学技士に興味を持ち、その専門性修得への意欲が強くあるとともに、臨床工学を学ぶことで、保健・医療・福祉分野に貢献する意思を持つ。</p> <p>工学AP 6. チーム医療の重要性を理解している。</p> <p>工学AP 7. 日本語・外国語での文章読解力と表現力を持ち、自分の考えを論理的に他者に伝える力を備えている。</p> <p>工学AP 8. 保健医療の諸課題に関心があり、その解決の意欲をもっている。</p>
高 大 連 携 講 座 試 験	総 合 型 選 抜 入 試 (高 大 連 携 型)	<p>学部AP 1. 大学で教養と専門的知識を修得するために必要な基礎学力を備えている。</p> <p>学部AP 5. 臨床検査学・臨床工学に関心がある。</p> <p>学部AP 6. 福祉・医療における幅広い分野の職種と連携し、チーム医療の一員として現場で貢献したいという意欲がある。</p> <p>学部AP 7. 保健医療の諸課題に関心がある。</p>
		<p>検査AP 1. さまざまな視点で物事をとらえ考察するために必要な教養と基礎学力を有する。特に、基礎的な自然科学(生物、化学、物理、数学)の知識を持つ。</p> <p>検査AP 5. 臨床検査技師に興味を持ち、その専門性修得への意欲が強くあるとともに、臨床検査学を学ぶことで、保健・医療・福祉分野に貢献する意思を持つ。</p> <p>検査AP 6. チーム医療の重要性を理解している。</p> <p>検査AP 7. 日本語・外国語での文章読解力と表現力を持ち、自分の考えを論理的に他者に伝える力を備えている。</p> <p>検査AP 8. 保健医療の諸課題に関心があり、その解決の意欲をもっている。</p>
小 論 文	学 校 推 薦 型 入 試	<p>学部AP 1. 大学で教養と専門的知識を修得するために必要な基礎学力を備えている。</p> <p>学部AP 5. 臨床検査学・臨床工学に関心がある。</p> <p>学部AP 6. 福祉・医療における幅広い分野の職種と連携し、チーム医療の一員として現場で貢献したいという意欲がある。</p> <p>学部AP 7. 保健医療の諸課題に関心がある。</p>

		<p>検査AP 1. さまざまな視点で物事をとらえ考察するために必要な教養と基礎学力を有する。特に、基礎的な自然科学(生物、化学、物理、数学)の知識を持つ。</p> <p>検査AP 5. 臨床検査技師に興味を持ち、その専門性修得への意欲が強くあるとともに、臨床検査学を学ぶことで、保健・医療・福祉分野に貢献する意思を持つ。</p> <p>検査AP 6. チーム医療の重要性を理解している。</p> <p>検査AP 7. 日本語・外国語での文章読解力と表現力を持ち、自分の考えを論理的に他者に伝える力を備えている。</p> <p>検査AP 8. 保健医療の諸課題に関心があり、その解決の意欲をもっている。</p>
		<p>工学AP 1. さまざまな視点で物事をとらえ考察するために必要な教養と基礎学力を有する。特に、物理の知識および数学的処理能力をはじめ、基礎的な生物、化学の知識を有する。</p> <p>工学AP 5. 臨床工学技士に興味を持ち、その専門性修得への意欲が強くあるとともに、臨床工学を学ぶことで、保健・医療・福祉分野に貢献する意思を持つ。</p> <p>工学AP 6. チーム医療の重要性を理解している。</p> <p>工学AP 7. 日本語・外国語での文章読解力と表現力を持ち、自分の考えを論理的に他者に伝える力を備えている。</p> <p>工学AP 8. 保健医療の諸課題に関心があり、その解決の意欲をもっている。</p>
面接試験	総合型選抜入試 学校推薦型入試 一般選抜入試	<p>学部AP 2. 特別活動及び課外活動を通して身に付けたコミュニケーション能力がある。</p> <p>学部AP 3. 高い倫理観を持っている。</p> <p>学部AP 4. 主体的に学ぶ姿勢を持っている。</p> <p>学部AP 5. 臨床検査学・臨床工学に関心がある。</p> <p>学部AP 6. 福祉・医療における幅広い分野の職種と連携し、チーム医療の一員として現場で貢献したいという意欲がある。</p> <p>学部AP 7. 保健医療の諸課題に関心がある。</p>
		<p>検査AP 2. 相手の立場を尊重し、関わりを通して双方ともにより良い成果をもたらすコミュニケーション能力を持つ。</p> <p>検査AP 3. 高い倫理観を持ち、人の痛みや心情を分かれうと努力できる。検査AP 5. 臨床検査技師に興味を持ち、その専門性修得への意欲が強くあるとともに、臨床検査学を学ぶことで、保健・医療・福祉分野に貢献する意思を持つ。</p> <p>検査AP 4. 旺盛な探求心を持ち、主体的に自ら進んで学び、気づき、考え、向上心を持って物事に取り組める。</p> <p>検査AP 5. 臨床検査技師に興味を持ち、その専門性修得への意欲が強くあるとともに、臨床検査学を学ぶことで、保健・医療・福祉分野に貢献する意思を持つ。</p> <p>検査AP 6. チーム医療の重要性を理解している。</p> <p>検査AP 7. 日本語・外国語での文章読解力と表現力を持ち、自分の考えを論理的に他者に伝える力を備えている。</p> <p>検査AP 8. 保健医療の諸課題に関心があり、その解決の意欲をもっている。</p>
		<p>工学AP 2. 相手の立場を尊重し、関わりを通して双方ともにより良い成果をもたらすコミュニケーション能力を持つ。</p> <p>工学AP 3. 高い倫理観を持ち、人の痛みや心情を分かれうと努力できる。</p> <p>工学AP 4. 旺盛な探求心を持ち、主体的に自ら進んで学び、気づき、考え、向上心を持って物事に取り組める。</p> <p>工学AP 5. 臨床工学技士に興味を持ち、その専門性修得への意欲が強くあるとともに、臨床工学を学ぶことで、保健・医療・福祉分野に貢献する意思を持つ。</p> <p>工学AP 6. チーム医療の重要性を理解している。</p> <p>工学AP 7. 日本語・外国語での文章読解力と表現力を持ち、自分の考えを論理的に他者に伝える力を備えている。</p> <p>工学AP 8. 保健医療の諸課題に関心があり、その解決の意欲をもっている。</p>
個別学力試験	一般選抜入試	<p>学部AP 1. 大学で教養と専門的知識を修得するために必要な基礎学力を備えている。</p>
		<p>検査AP 1. さまざまな視点で物事をとらえ考察するために必要な教養と基礎学力を有する。特に、基礎的な自然科学(生物、化学、物理、数学)の知識を持つ。</p> <p>検査AP 7. 日本語・外国語での文章読解力と表現力を持ち、自分の考えを論理的に他者に伝える力を備えている。</p>
		<p>工学AP 1. さまざまな視点で物事をとらえ考察するために必要な教養と基礎学力を有する。特に、物理の知識および数学的処理能力をはじめ、基礎的な生物、化学の知識を有する。</p> <p>工学AP 7. 日本語・外国語での文章読解力と表現力を持ち、自分の考えを論理的に他者に伝える力を備えている。</p>
大学共通型 大学入学共通型 大学入学共通型 大学入学共通型	大学入学共通型	<p>学部AP 1. 大学で教養と専門的知識を修得するために必要な基礎学力を備えている。</p>
		<p>検査AP 1. さまざまな視点で物事をとらえ考察するために必要な教養と基礎学力を有する。特に、基礎的な自然科学(生物、化学、物理、数学)の知識を持つ。</p> <p>検査AP 7. 日本語・外国語での文章読解力と表現力を持ち、自分の考えを論理的に他者に伝える力を備えている。</p>

工学AP 1. さまざまな視点で物事をとらえ考察するために必要な教養と基礎学力を有する。特に、物理の知識および数学的処理能力をはじめ、基礎的な生物、化学の知識を有する。
 工学AP 7. 日本語・外国語での文章読解力と表現力を持ち、自分の考えを論理的に他者に伝える力を備えている。

また、高大接続改革により、高校教育で「学力の3要素」を育成し、大学入試で知識だけではなく「学力の3要素」に示されている力を多面的・総合的に評価し、大学教育では高校までに身につけた力をさらに伸ばせるよう改革を図るとされており、本学でも従来の入試制度を下記のように見直し、実施することとしている。

1. 学力の3要素の評価（次の表「学力の3要素と入学者選抜における評価項目」参照）

すべての入試区分において、次の学力の3要素を評価する。

- ①「知識・教養・技能」
- ②「思考力・判断力・表現力」
- ③「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」

2. 入試区分の変更

従来の入試区分を次のとおり変更する。

- ①「一般入試」〈変更前〉⇒「一般選抜」〈変更後〉
- ②「AO入試」〈変更前〉⇒「総合型選抜」〈変更後〉
- ③「推薦入試」〈変更前〉⇒「学校推薦型選抜」〈変更後〉

3. 調査書の活用

すべての入試区分において、学力の3要素、特に「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価する観点から調査書を合格者の判定に活用する。

4. 一般選抜における記述式問題の出題

一般選抜の個別学力検査では、「知能・技能」に加え「思考力・判断力・表現力」を評価する記述式問題を出題する。

5. 英語の外部検定試験の活用

英語の4技能（「読む」「聞く」「話す」「書く」）を適切に評価するために、一般選抜において英語の外部検定試験(認定試験)を活用する。

6. 大学入学共通テストの活用

大学入学希望者を対象に、従来の「大学入試センター試験」に代わる「大学入学共通テスト」の成績を利用した入学者選抜を実施する。

表「学力の3要素と入学者選抜における評価項目」

評価対象の 学力の3 要素	選抜区 分	①「知 識 ・ 技 能」	②「思考力・判断力 ・ 表現力」		③「主体性を持って多様な 人々と協働して学ぶ態度」		
			思考・ 判断力	表現力	協働 力 (協働 性)	関心・ 意欲・ 態度 (主体 性)	探究 心
調査書	総合型 入試 学校推 薦型入				○	○	○

	試 一般選 抜入試 大学入 学共通 テスト利 用型						
志望理 由書	総合型 選抜入 試 学校推 薦型入 試			○		○	
活動報 告書	総合選 抜型入 試 学校推 薦型入 試 一般 選抜入			○	○	○	
事前課 題	総合型 選抜入 試 (課題チ ャレンジ 型)					○	○
プレゼン テーション	総合型 選抜入 試 (課題チ ャレンジ 型)			○			○
高大連 携講座 試験	総合型 選抜入 試 (高大 連携 型)	○	○				○
小論文	学校推 薦型入 試	○	○	○			
面接試 験	総合型 選抜入 試 学校推 薦型入 試 一般選 抜入試			○	○	○	○
個別学 力試験	一般選 抜入試	○	○	○			
大学共 通試験	大学入 学共通 テスト利 用型	○	○	○			

【具体的選抜方法と、資質・能力との関係】

各選抜制度の概要は下記のとおりである。

(学校推薦型入試)

高等学校における成績が本学の定める評定平均値以上であり、かつ、高等学校長の推薦を受けたものに対して、小論文試験と面接試験を通じて、基礎的な知識・技能やそれらを活用する思考力・判断力・表現力、コミュニケーション能力および社会貢献に対する意欲等を確認し、医療技術学部医療技術学科を含めた各学部・学科において継続的に学習を行う意欲を評価し、多面的、総合的な評価を行う。

地域枠推薦入試とは群馬県内高等学校在籍者又は群馬県在住者を対象としたものである。本学は地域貢献を大学の理念とし、将来、地域の医療福祉教育に貢献する人材の育成を使命としている。近年、群馬県においても、急速な少子高齢化の進展や医療技術の進歩により、県民の医療福祉教育のニーズは高度・多様化している。

【具体的選抜方法と、資質・能力との関係】

各選抜制度の概要は下記のとおりである。

(推薦入試)

高等学校における成績が本学の定める評定平均値以上であり、かつ、高等学校長の推薦を受けたものに対して、小論文試験と面接試験を通じて、基礎的な知識・技能やそれらを活用する思考力・判断力・表現力、コミュニケーション能力および社会貢献に対する意欲等を確認し、各学部・学科において継続的に学習を行う意欲を評価し、多面的、総合的な評価を行う。

しかし、医療福祉教育の現場では従事者不足の問題が深刻化している。地域枠推薦入試は、こういった地域の医療福祉教育ニーズに対応することを目的として、医療福祉教育従事者として活躍しうる能力・適正だけでなく、明日の群馬県の医療福祉教育を担うという強い意志を有する地元の生徒を求めるために実施される。

同窓子女・子弟入試とは父母、兄弟姉妹が本学園の卒業生または本学に兄弟姉妹が在籍している者が対象である。群馬医療福祉大学は、室町時代の1449年、長尾昌賢によって設立された漢学の学問所を発祥の紀元とし、1989年（平成元年）に、群馬県で最も早く社会福祉に目を向けて設立した「群馬社会福祉専門学校」が現在の群馬医療福祉大学の基礎となっている。その群馬社会福祉専門学校が卒業生を輩出してから30年が経過し、当時の卒業生は群馬県内外の多くの施設、病院、保育所、幼稚園や学校等で活躍し、社会の中核で活躍しているとともに、高校生の子どもを持つ保護者になっている。また、まだ若い20代、30代の卒業生も社会の最先端で医療、福祉、教育の現場で活躍している。本学は、群馬県や前橋市をはじめとする県内市町村、東日本各地の社会福祉施設や教育現場、医療現場で働く人材を育成するため、地域の行政からも大きく期待を寄せられている学園である。群馬医療福祉大学の「学校推薦型選抜（同窓子女子弟）」を実施する意義は、本学の基本理念を学んだ「福祉・医療・看護従事者たる保護者、兄姉」が、家庭においても社会の医療、福祉、教育の魅力を語り、地域の中核で活躍する意味を語ってきたことを、成長過程で日常的に聞いてきた子どもであり弟妹たちが、選抜対象となるということである。それは、本学の建学の精神やアドミッション・ポリシーを日頃から聴き、日々啓発されてきたことを意味している。本学園の卒業生である多くの保護者、兄姉は福祉・医療・看護の従事者としてこの地域に定着し活躍している。本学の基本理念に賛同し、その子弟子女に福祉・医療・看護の分野を目指してほしいという強固な想いは、必ずや地域の福祉・医療・看護を支える人材へとつながることと期待できる。その上で、高校生に成長しても本学受験を志し、将来の活躍を目指しているとするならば、地域の医療・福祉・教育を担う重要な学生確保手段として、大学として「求める人材像」を事前に理解した貴重な高校生たちを選抜する機会を得ることになる。ただし、選抜はあくまでも他の推薦入試制度と同様に公正に実施されるため、子弟子女という理由のみで評価に加点されるということはない。

(是正事項) 医療技術学部 医療技術学科

6. <臨床検査技師カリキュラム改正に対する対応が不明確>

厚生労働省開催の臨床検査技師学校養成所カリキュラム等改善検討会報告書が4月に公表され、臨床検査技師のカリキュラムについて臨地実習の必要単位数の増加等、関係法令の改正と併せて行われ、2022年4月入学生から適用することとされている。申請内容が本改正に対応しているか又は将来的にどのように対応するか不明確であるので、具体的に説明すること。

(対応)

臨床検査技師学校養成所カリキュラム等改善検討会報告書に記された新カリキュラムに対応可能なようにカリキュラムを編成した。新カリキュラムと本学医療技術学部臨床検査学専攻の対応表に示したように、臨地実習以外はすべて対応している。臨地実習は7単位と申請書類には記載したが(申請時のガイドラインに従い)、令和4年度入学生より12単位と5単位増やす。しかし、現在必要としている選択科目単位数を11単位から6単位に減じて学生の履修負担を軽減する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (22～23 ページ)

新	旧
*「臨床検査技師養成所指導ガイドライン」の改定に伴いカリキュラムが改定されるが、本学部臨床検査学専攻のカリキュラムは、臨地実習(7単位から12単位に増加)以外は対応している。令和4年度より、臨床実習を7単位から12単位へと5単位増やす必要があるが、現在の必要としている選択科目単位数を11単位から6単位に減じて学生の履修負担を軽減する。履修モデルを示す。【「設置の趣旨等を記載した書類」資料8-5】	(追加)

新				旧	
臨床検査技師養成所新カリキュラムに対する対照表				(追加)	
新設校 京都府立医科大学 新カリキュラム		旧校 京都府立医科大学 新設校用カリキュラム			
教育内容	単位数	必修科目名	単位数	合計	
基礎分野	川学初等考の基礎 人間と生活・社会の理解	生物学	2	18	
		化学	2		
		物理学	2		
		数学/統計学の基礎	2		
		プログラミングの基礎	2		
		英語学	2		
		心理学概論	1		
		医学英語	1		
		ボランティヤ活動Ⅰ	1		
		ボランティヤ活動Ⅱ	1		
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖学	3	9	
		解剖学実習	1		
		生理学Ⅰ	2		
		生理学Ⅱ	2		
		免疫学実習	1		
	臨床検査の基礎とその関係との関係	生化学Ⅰ	2	7	
		生化学Ⅱ	2		
		生化学実習	1		
	臨床検査法と臨床検査	公衆衛生学・検体法概論	2	4	
		チームケア入門Ⅰ	1		
臨床工学及び情報科学	臨床工学概論	2	6		
	臨床工学概論実習	1			
	情報処理概論	1			
専門分野	臨床検査学 (検査学)	臨床検査学Ⅰ	2	8	
		臨床検査学Ⅱ	2		
		検査法概論	1		
	臨床検査学 (血液学・尿検査、病態学検査)	検査学Ⅰ	2	9	
		検査学Ⅱ	1		
		検査学実習	1		
		臨床検査学Ⅰ	2		
		臨床検査学Ⅱ	2		
	生体化学分析検査学 (尿・血液等一般検査、生化学的検査・免疫学的検査、遺伝子検査・染色体検査)	臨床化学Ⅰ	2	12	
		臨床化学Ⅱ	2		
臨床化学実習Ⅰ		1			
臨床化学実習Ⅱ		1			
臨床検査法概論Ⅰ		2			
臨床検査法概論Ⅱ		2			
臨床検査法実習Ⅰ		1			
臨床検査法実習Ⅱ		1			
臨床検査学		3			
臨床・生体情報検査学 (臨床・検査法概論、臨床検査学検査)		臨床検査学実習Ⅰ	1		13
	臨床検査学実習Ⅱ	2			
	臨床検査学実習Ⅲ	2			
	臨床検査学実習Ⅳ	1			
	臨床検査学実習Ⅴ	1			
臨床検査検査学 (生化学的検査)	臨床検査学	2	12		
	臨床検査学実習Ⅰ	1			
	臨床検査学実習Ⅱ	1			
	臨床検査学実習Ⅲ	2			
	臨床検査学実習Ⅳ	2			
臨床検査検査学 (臨床検査学検査)	臨床検査学	3	8		
	検査法概論Ⅰ	1			
	検査法概論Ⅱ	2			
臨床検査検査学 (臨床検査学検査)	検査法概論Ⅰ	2	4		
	検査法概論Ⅱ	2			
臨床検査学	12	臨床検査学	7	7	
合計単位数	102		117	117	

(是正事項) 医療技術学部 医療技術学科

7. <ダブルライセンスを目指す場合のカリキュラム編成が不明確>

申請書では、臨床検査技師、臨床工学士のダブルライセンスについての記載があるが、以下の点が不明確であるため、具体的に説明し、必要に応じて適切に改めること。

(1) 両資格を取得する場合、現状でも相当数の授業科目の履修が必要となるが、臨床検査技師カリキュラム改正により必要時間数が更に増加する見込みであること等も踏まえると、実現性に懸念がある。両資格を取得する場合の履修モデルを明確にすること。

(2) 2年生前期の GPA が一定以上の者のみダブルライセンスが可能とする記載があるが、高い成績

要件を設定することで多数の学生は希望しても授業を履修できない状況となる。両資格を取得する想定学生数を明確にした上で成績要件の設定趣旨や希望がかなわない学生への対応について明確にすること。

(対応)

(1) 両資格を取得する場合の履修モデルは、「設置の趣旨等を記載した書類」の資料 8-3,4 に「臨床検査技師および臨床工学技士両国家試験受験資格取得のための履修モデル（臨床検査学専攻）」と「臨床検査技師および臨床工学技士両国家試験受験資格取得のための履修モデル（臨床工学専攻）」として記載した。現在のカリキュラムでは 158 単位以上の履修が必要となる。臨床検査技師カリキュラム改正により本学医療技術学部では、臨床実習を 7 単位から 12 単位へと 5 単位増やす必要があるが、現在必修科目として位置付けている「倫理学（2 単位）」、「心理学概論（1 単位）」、「総合演習Ⅰ（1 単位）」、「基礎演習Ⅱ（1 単位）」を選択履修できる科目へと変更し、学生の科目選択の幅を拡げることにより必修単位数を軽減し、ダブルライセンスに必要な単位を全て取得して卒業するために必要な履修単位数を 158 単位以上とする。年次別履修単位数は 50 単位を超えず、履修可能な単位数と考える。新カリキュラム移行後の履修モデルを「設置の趣旨等を記載した書類」資料 8-6, 8-7 に示した。また、「群馬医療福祉大学医療技術部 授業時間割 臨床検査技師と臨床工学技士のふたつの国家試験受験資格取得を目指す場合」（資料 1）を示す。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 22～23 ページ

新	旧
<p>・・・臨床検査技師および臨床工学技士両国家試験受験資格取得のためには、合計 158 単位以上の取得が必要となる。履修モデル【「設置の趣旨等を記載した書類」資料 8-3,4】と時間割【資料 8-8】を示す。</p> <p>・・・</p> <p>* 「臨床検査技師および臨床工学技士両国家試験受験資格取得のための単位数も、「臨床検査技師養成所指導ガイドライン」の改定に伴い、臨床実習を 7 単位から 12 単位へと 5 単位増加する必要がある。しかし、現在必修科目として位置付けている「倫理学（2 単位）」、「心理学概論（1 単位）」、「総合演習Ⅰ（1 単位）」、「基礎演習Ⅱ（1 単位）」を選択履修できる科目へと変更し、学生の科目選択の幅を拡げることにより必修単位数を軽減する。履修モデルを示す。【「設置の趣旨等を記載した書類」資料 8-6, 8-7】</p>	<p>(追加)</p>

(2) 本学の社会福祉学部、看護学部、リハビリテーション学部の 2 年次の GPA 平均値は 2.7 であったため、これを本学の 2 年次の平均的成績と判断した。この基準に則ると臨床検査学専攻および臨床工学専攻のそれぞれ半数、約 20 名がダブルライセンス取得のためにカリキュラム履修を希望できる。また、臨地実習・臨床実習の学生数はそれぞれ最大約 60 名となり、実習施設の受け入れ態勢から適切と判断した。

成績要件により臨床検査技師と臨床工学技士のふたつの国家試験受験資格取得のためのカリキュラム

履修の可否を判定することは、入学時に、選抜の理由、方法、および選抜に漏れた場合の対応を学生に周知する。

ふたつの国家試験受験資格取得を目指さない学生においても、臨地実習・臨床実習以外の科目は履修可能であり、臨床検査学・臨床工学の知識・技術を幅広く取得することは可能である。また、「バイオ技術者認定試験」および「第2種ME技術実力検定試験」の受験を3年次に推奨し、幅広い資格の上積みを図る。

ふたつの国家試験受験資格取得を目指す学生の履修負担が多いため、学生支援を十分に行う。支援体制を「設置の趣旨等を記載した書類」6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件（2）履修指導方法に明記した。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（21 ページ）

新	旧
臨床検査技師と臨床工学技士のふたつの国家試験受験資格取得を目指す学生の履修負担が多いため、学生支援を十分に行う。本学は担任制であるため、担当学生を最低月1回面談指導する。教育支援センターは、学期ごとに成績不良者に面談指導を行う。学生相談室は、学習や大学生活等に対して不安を有する学生を支援する。さらに学期ごとに成績不良者を対象に補講を行う。	（追加）

（是正事項）医療技術学部 医療技術学科

8. <資格取得に関係する科目の必修・選択の設定が不明確>

資格取得に必要な実習系科目について、いずれの専攻でも選択科目となっている理由が不明確であるため、具体的に説明するか適切に改めること。

（対応）

臨地実習・臨床実習を必修に改めた。

（新旧対照表）教育課程等の概要、シラバス、カリキュラムマップ、履修モデル

新	旧
臨地実習 必修 臨床実習 必修	臨地実習 選択 臨床実習 選択

（是正事項）医療技術学部 医療技術学科

9. <臨地実習・臨床実習の体制等が不明確>

臨地実習・臨床実習について、実習先の指導者の要件や実習先での学修評価の基準、実習先での感染防止の手順等が不明確である。加えて、臨床検査学と臨床工学の観点を取得した上で臨地実習・臨床実

習に臨むことの有益性が述べられているが、実習本体で連携しない理由も不明確であるため、これらの点について具体的に説明すること。

(対応)

①臨地実習（臨床検査学専攻）の指導者は、「各指導内容に対する専門的な知識に優れ、医師、臨床検査技師又はこれと同等以上の学識経験を有する者として5年以上の実務経験、業績を有し、十分な指導能力を有する者」とした。また、臨床実習（臨床工学専攻）の指導者は、「各指導内容に対する専門的な知識に優れ、医師、臨床工学技士又はこれと同等以上の学識経験を有する者として5年以上の実務経験、業績を有し、十分な指導能力を有する者」とした。さらに、臨地実習指導者には、令和4年以降は「臨地実習指導者講習会を受講した者が望ましい」を追加する。臨床実習指導者には、「臨床実習指導者研修会を修了した者が望ましい」を追加する。

現状では、「臨地実習指導者講習会」受講者数が予測出来ないこと、および臨床工学技士が「臨床実習指導者研修会」を修了し、日本臨床工学技士会の「認定臨床実習指導施設」に認定されている施設が群馬県0、長野県1、埼玉県1、新潟県0であるため、「望ましい」とする。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (41 ページ)

新	旧
<p>① 実習指導者</p> <p>臨地実習（臨床検査学専攻）の指導者は、各指導内容に対する専門的な知識に優れ、医師、臨床検査技師又はこれと同等以上の学識経験を有する者として5年以上の実務経験、業績を有し、十分な指導能力を有する者とする。令和4年以降は「臨地実習指導者講習会」を受講した者が望ましい。</p> <p>臨床実習（臨床工学専攻）の指導者は、各指導内容に対する専門的な知識に優れ、医師、臨床工学技士又はこれと同等以上の学識経験を有する者として5年以上の実務経験、業績を有し、十分な指導能力を有する者とする。また、「臨床実習指導者研修会」を修了した者が望ましい。</p>	<p>(追加)</p>

②実習先の学修評価の基準を、「大学の学部等の設置の趣旨等を記載した資料」と「臨地実習および臨床実習の手引き」に明記する。到達目標は「臨地実習および臨床実習の手引き」に明記する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (43 ページ)

新	旧
<p>10) 成績評価体制及び単位認定方法</p> <p>成績評価は、実習指導者が出席状況、実習内容、実習態度、実習目標到達度（到達目標は「群馬医療福祉大学医療技術学部臨地・臨床実習の手引き」【資料12】に記載）などから判定した「臨地実習・臨床実習評価」（配点50点）と実習終了後に行う「臨地実習・臨床実習評価試験（筆記試験）」（配点50点）で評価し、・・・</p>	<p>10) 成績評価体制及び単位認定方法</p> <p>成績評価は、実習指導者が出席状況、実習内容、実習態度などから判定した「臨地実習・臨床実習評価」と実習終了後に行う「臨地実習・臨床実習評価試験（筆記試験）」で評価し、・・・</p>

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類の資料12-1、12-2

新	旧
<p>5. 成績評価 成績評価は、実習指導者が出席状況、実習内容、実習態度、実習目標到達度などから判定した「臨地実習評価」(配点50点)と実習終了後に行う「臨地実習評価試験(筆記試験)」(配点50点)を総合して評価し、科目責任者が単位認定を行う。実習到達目標は別添4に示した。</p>	<p>5. 成績評価 ・実習評価表による評価結果 評価目標は到達目標を参照。実習態度や出席状況なども評価対象となる。 ・筆記試験結果 ・感想文の提出 A4用紙1枚</p>

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類の資料12-1、12-2

新	旧
別添4 実習到達目標	(追加)

③実習先の感染防止の手順は、「臨地実習および臨床実習の手引き」【資料12】の「7. 実習事故対策マニュアル」に記載してあることを、「大学の学部等の設置の趣旨等を記載した資料」に明記した。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類(43ページ)

新	旧
<p>また、実習中のインシデント・アクシデント、感染対策については「群馬医療福祉大学医療技術学部臨地・臨床実習の手引き」【資料12】の「7. 実習事故対策マニュアル」に従い指導、実施する。</p>	(追加)

④臨床検査学と臨床工学の観点を取得した上で臨地実習・臨床実習に臨むことの有益性の説明が不十分であったので、具体的に説明する。また、臨地実習と臨床実習は臨床検査技師養成所指導ガイドラインおよび臨床工学技士養成所指導ガイドラインに従って行うため、実習本体で連携することは実習施設・体制上難しい。そこで、臨地実習・臨床実習開始前に2日間の見学実習を行い、臨床検査学専攻では臨床実習施設で臨床工学の、臨床工学専攻では臨地実習施設で臨床検査学の現場を体験させ、その特徴および違いを認識させる。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類(18ページ)

新	旧
<p>4. 教育課程の編成の考え方及び特色 (6) 臨地実習(臨床検査学専攻)・臨床実習(臨床工学専攻) 4年次前期に・・・臨地実習、臨床実習を体験することは、臨床検査技師と臨床工学技士の職種の役割をよりよく理解でき、ひいては医師、看護師、理学療法士、作業療法士、診療放射線技師などの他職種の役割にも興味を持ち理解す</p>	<p>4. 教育課程の編成の考え方及び特色 (6) 臨地実習(臨床検査学専攻)・臨床実習(臨床工学専攻) 4年次前期に・・・臨地実習、臨床実習を体験することは、異なった視点から幅広く考えることができ、卒業後に医療現場における様々な課題の解決能力をより高めることができる。"</p>

る意欲が高まり、チーム医療の一員として働く素養が身につく。また、ダブルライセンスを目指す学生が卒業後にどちらの職種を主とするかの判断にも役立つ。	
--	--

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (40 ページ)

新	旧
③実習の構成と概要 実習の基本構成は、・・・なお、臨地実習・臨床実習の開始前に臨床検査学専攻では臨床実習施設で、臨床工学専攻では臨地実習施設で2日間の見学実習を行い、臨床検査技師・臨床検査技師の医療現場における役割、ふたつの職種の違い・位置付けを学ぶ。・・・	(追加)

(是正事項) 医療技術学部 医療技術学科

10. <卒業研究の体制が不明確>

卒業研究Ⅰ・Ⅱについて、中間報告会、最終報告会の実施方法や評価方法等について不明確である。加えて、シラバスの記載では関係キーワードとして臨床検査学のみが記載されているが、臨床工学の記載がない理由も不明確であるため、これらの点について具体的に説明すること。

(対応)

①中間報告会、最終報告会の実施方法と評価方法をシラバスおよび「大学の学部等の設置の趣旨等を記載した資料」に追記した。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (18 ページ)

新	旧
卒業研究Ⅰの評価は中間報告会で、卒業研究Ⅱの評価は、卒業論文および最終報告会で判定する。中間報告会および最終報告会は、学生・卒業研究指導教員全員参加で開催し、学生は卒業研究の成果をスライドで発表し、質疑に答える。指導教員全員でその発表内容・質疑応答の内容を評価する。	(追加)

②シラバスのキーワードに臨床工学が記載されていない点は、脱字であった。卒業研究のキーワードに「臨床工学」を追記した。

(新旧対照表) シラバス 卒業研究Ⅰ

新	旧
キーワード 臨床検査学、臨床工学、研究、論文作成法 成績評価の基準 卒業研究中間報告会の発表内容・質疑応答の内容で評価する。	キーワード 臨床検査学、研究、論文作成法 成績評価の基準 卒業研究中間報告会の内容で評価する。

(新旧対照表) シラバス 卒業研究Ⅱ

新	旧
<p>キーワード 臨床検査学、臨床工学、研究、論文作成法 成績評価の基準 卒業研究最終報告会の発表内容・質疑応答の 内容、および卒業論文で評価する。</p>	<p>キーワード 臨床検査学、研究、論文作成法 成績評価の基準 卒業研究最終報告会の内容、卒業論文で評価す る。</p>

(是正事項) 医療技術学部 医療技術学科

11. <教員組織の将来構想が不明確>

教員の年齢構成が比較的高齢に偏っていることから、教育研究の継続性を踏まえ、若手教員の採用計画など教員組織の将来構想を明確にすること。

(対応) 本学部学科としての将来構想とともに、高齢の教員の役割とその意義について説明するとともに、今後の若手教員の採用計画について明記した。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (20 ページ)

新	旧
<p>本学部設置における将来構想には、いずれ大学院を設け臨床検査学・臨床工学を専門領域とする教育研究を充実させることが目標である。本学には、社会福祉学研究科修士課程の大学院が既設されていることから、可能な限り早期に医療技術学研究科を置きたいと考えている。そのことを見据えて、高齢ではあるが教育・研究実績を着実に蓄積してきている教授を採用している。</p> <p>本学部発足後は、臨床検査学・臨床工学においては充実した教育研究業績をもつ教授らとその後継者となる若手の教員とで共に“切磋琢磨”しながらその業績を重ね早期の大学院設置に備えたいと考えている。ベテランの教員は、研究のみならず教育的にも円熟した考え方と手技を持っており、後進の専任教員の教育や研究の指導育成にあたり、確実な教育研究基盤が確立できるよう努力する。特に長年医療技術者の養成という役割を社会的に担ってきた教員が、長年の経験により4年制大学のあるべき、あるいはありたいと理想にむかって教育研究することは、わが国の医療</p>	

技術者教育史上最も有用なことと考える。豊富な教育研究経験を専任教員のみならず直接学生に対しても伝え、引き継がれていくことは本学の伝統づくりの礎となると考えている。

本学の定年退職者再雇用規程では、65才をもって定年としているが、再雇用期間は80才まで可能である。ただし、再雇用にあたっては、教員から希望があった場合に、理事長が本学の教育研究上特に必要な人材であると認めた場合に限り、引き続き雇用されるものである。

本学部の高齢の専任教員は、上記のごとく、本学部の礎と後継者づくりに専念し、そのことが成就した際、完成年度以降の可能な限り早期に、教育研究水準を維持しつつ、若手の専任教員採用にシフトしたいと考えている。本学部の専任教員の年齢構成（完成年度）は70歳以上3名、60歳代4名、50歳代5名、40歳代4名、30歳代6名、20歳代2名となっている。高齢の教員の退職に伴っての今後の採用計画としては、30歳代を中心に若手層の充実をはかるとともに、20歳代の若手教員の育成にも取り組む計画である。今後採用予定の専任助手については若手で有能な人材（40歳以下 医療系大学卒 修士学位保有者が望ましい）を採用し、教育研究業績を積み、将来は専任教員となって教育研究の推進役となれるよう育成する方針である。

(改善事項) 医療技術学部 医療技術学科

12. <施設・設備の状況が不明確>

動物室・動物実験室の隣に微生物学・寄生虫学研究室が配置されるなど、研究上の配慮が不明確な施設が見受けられるので、明確にすること。また、危険物質の収納棚等、研究に必要な設備・備品等がある場合は、それらをリスト化して示すこと。

(対応)

①3階の研究室スペースは共同利用を原則とした。しかし、感染実験を行う予定（P2実験室）の微生物学・寄生虫学研究室、有機溶媒等の危険物を汎用する分子病理学実験室、および動物室、動物実験室は別室と

し、ドアで分離した。これらの3室はドラフト、安全キャビネット、排気設備等を設置して安全を確保した。動物室と動物実験室の間にもドアを設置し、ねずみ返しも設置した。清浄環境が必要な培養室も同様に別室とし、ドアで分離した。フリーザー室にディープフリーザーを集中配備し、その電源は独立させ、冷房にかかる消費電力の削減を図った。

②危険物・劇物の保管庫（鍵付き）は、2階の「実習準備室」に設置した。

③研究に必要な設備・備品のリストを添付する（資料2）。

（是正事項）医療技術学部 医療技術学科

13. <記載不備>

学科名称について、ディプロマ・ポリシーでは「医療秘術学科」、教員名簿では「医療時術学科」とされているほか、学則に他学科の学位名称が規定されているが本学科については見当たらないなど、申請書上に誤字・不整合な点が散見されることから、申請書全体の再点検を行った上で適切に改めること。

（対応）

①ディプロマ・ポリシーの「医療秘術学科」を「医療技術学科」に修正した。

②教員名簿の「医療時術学科」を「医療技術学科」に修正した。

③学則第42条に、「医療技術学部 医療技術学科 学士（医療技術学）」を追記した。

（新旧対照表）

新	旧
①設置の趣旨等を記載した書類 医療技術学科	①設置の趣旨等を記載した書類 医療秘術学科
②教員名簿 医療技術学科	②教員名簿 医療時術学科
③学則 (学 士)	③学則 (学 士)
第42条 卒業を認定された者に対し、学士の学位を授与する。 2. 前項の学士の学位に付記する専攻分野の名称は、次のとおりとする。 社会福祉学部 社会福祉学科 学士（社会福祉） 看護学部 看護学科 学士（看護学） リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 理学療法専攻 学士（理学療法学） リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 作業療法専攻 学士（作業療法学） 医療技術学部 医療技術学科 学士（医療技術学）	第42条 卒業を認定された者に対し、学士の学位を授与する。 2. 前項の学士の学位に付記する専攻分野の名称は、次のとおりとする。 社会福祉学部 社会福祉学科 学士（社会福祉） 看護学部 看護学科 学士（看護学） リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 理学療法専攻 学士（理学療法学） リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 作業療法専攻 学士（作業療法学）

群馬医療福祉大学医療技術部 授業時間割
臨床検査技師と臨床工学技士のふたつの国家試験受験資格取得を目指す場合

資料 1

履修年次	1年次		2年次		3年次		4年次		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
曜日	時間	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	
月	1	基礎演習Ⅰ / ボランティア活動Ⅰ (教室) 311/312	基礎演習Ⅱ / ボランティア活動Ⅱ (教室) 311/312	総合演習Ⅰ (教室) 311/312		臨床実習 臨床実習			
	2	チームケア入門Ⅰ (教室) 311/312	チームケア入門Ⅱ (教室) 311/312	臨床免疫学Ⅰ (教室) 311/312	臨床免疫学Ⅱ (教室) 311/312	総合演習Ⅱ (教室) 311/312			
	3	スポーツ及びレクリエーション実技 (実) 体育館・運動場	臨床医学総論Ⅰ (教室) 311/312	臨床医学総論Ⅱ (教室) 311/312	臨床免疫学実習Ⅰ (実) 203	臨床免疫学実習Ⅱ (実) 203	公衆衛生学 関係法規 (教室) 311/312	臨床工学演習 (教室) 314	
	4	情報処理演習 (教室) 311/312	情報科学総論 (教室) 311/312	医用情報処理工学 (教室) 311/312	プログラミングの基礎 (教室) 311/312				
	5	哲学 (教室) 311/312	数学/統計学の基礎 (教室) 311/312			医動物学 (教室) 323	医動物学実習 (実) 202		
火	1	化学 (教室) 311/312	物理学 (教室) 311/312	応用数学 (教室)	生体物性工学 (教室) 312		ロボティクス (教室) 313	臨床実習 臨床実習	
	2	法学 (日本国憲法含む) (教室) 311/312	生物学 (教室) 311/312	計測工学 (教室) 312	医用機械工学 (教室) 312	医用システム 制御工学 (教室) 313	福祉工学 (教室) 313		
	3	倫理学 (教室) 311/312	経済学 (教室) 321	医用材料工学 (教室) 312	医用治療機器学 (教室) 311/312	臨床血液学Ⅰ (教室) 311/312	臨床血液学Ⅱ (教室) 311/312	臨床検査演習 (教室) 324	
	4	韓国語Ⅰ (教室) 321	韓国語Ⅱ (教室) 321	医用機器学総論 (教室) 311/312	医用治療機器学実習 (実) 102	臨床血液学実習Ⅰ (実) 203	臨床血液学実習Ⅱ (実) 203		
	5	心理学総論 (教室) 311/312							
水	1	生理学Ⅰ (教室) 311/312	生理学Ⅱ (教室) 311/312	検査機器総論 (教室) 311/312		呼吸療法装置学 (教室) 313	体外露理装置学実習 (実) 102	臨床実習 臨床実習	
	2	解剖学 (教室) 311/312	生理学実習 (実) 104			血液浄化療法装置学 (教室) 313			
	3	解剖学 実習 (実) 104		病理学Ⅰ (教室) 311/312	病理学Ⅱ (教室) 311/312	体外露理装置学 (教室) 313	血液浄化療法装置学実習 (実) 101		
	4		医療・福祉・教育の基礎 教室311/312		病理学実習 (実) 205		呼吸療法装置学実習 (実) 102		
	5	中国語Ⅰ (教室) 321	中国語Ⅱ (教室) 321						
木	1	生化学Ⅰ (教室) 311/312	生化学Ⅱ (教室) 311/312	臨床化学Ⅰ (教室) 322	臨床化学Ⅱ (教室) 322	臨床微生物学 (実) 313	医用機器安全管理学 (教室) 313	臨床実習 臨床実習	
	2	論語 (教室) 321	生化学実習 (実) 201	臨床化学実習Ⅰ (実) 201	臨床化学実習Ⅱ (実) 201		医用機器安全管理学実習 (実) 102		
	3	国際文化論 (教室) 321				臨床微生物学実習 (実) 202		卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	
	4	英語Ⅰ (教室) 311/312	英語Ⅱ (教室) 311/312	医学英語 (教室) 311/312			医療安全管理学 (教室) 323		
	5	医学総論 (教室) 311/312	マスメディア論 (教室) 321				生体計測装置学 (教室) 311/312		
金	1		医用工学総論 (教室) 311/312	臨床検査総論Ⅰ (教室) 322	臨床検査総論Ⅱ (教室) 322	生理機能検査学Ⅰ (教室) 311/312	生理機能検査学Ⅱ (教室) 311/312	臨床実習 臨床実習	
	2		医用工学総論実習 (実) 101	臨床検査実習Ⅰ (実) 201	臨床検査実習Ⅱ (実) 201	生理機能検査学実習Ⅰ (実) 105	生理機能検査学実習Ⅱ (実) 105		
	3								
	4	医用電気工学Ⅰ (教室) 311	医用電気工学Ⅱ (教室) 311	医用電子工学Ⅰ (教室) 312	医用電子工学Ⅱ (教室) 311	放射線同位元素検査学 (教室) 311/312	薬理学 (教室) 311/312		
	5		医用電気工学実習 (実) 101		医用電子工学実習 (実) 101	小児科学 (教室) 313	看護学総論 (教室) 323		
	6								

(実) : 実習室
: 履修が必要な科目

設備・備品等一覧

資料2

No.	部屋名	設備名	メーカー	数	型番・備考
		臨床工学分野			
1	工学実習室1	透析用監視装置 TR-3300M TYPEB	東レメディカル	1	血液モニタ含む
2	工学実習室1	個人用透析装置 NCV-11	ニプロ	1	
3	工学実習室1	多人数用透析液供給装置 TC-10R	東レメディカル	1	
4	工学実習室1	トキシノメータミニ	日機装	1	
5	工学実習室1	浸透圧計	日機装	1	OSA-33 16Kg
6	工学実習室1	アネロイド血圧計	タイコス	2	7670-16
7	工学実習室1	CPS実習ユニットⅡ	京都科学	1	
8	工学実習室1	クランク手動ベッド	シーホネンス	2	SH-1461S
9	工学実習室1	Ro装置 TW-900R	東レメディカル	1	
10	工学実習室1	オシロスコープ	TEXIO	10	DGS-1072B
11	工学実習室1	ファンクションジェネレータ	TEXIO	10	FGX-2220
12	工学実習室1	単層誘導発電機	島津製作所	10	135-190
13	工学実習室1	単巻可変変圧器	島津製作所	10	134-270
14	工学実習室1	直流安定化電源	島津製作所	10	238-338
15	工学実習室1	デジタルマルチメータ	カイセ	20	TY530
16	工学実習室1	低周波発信機	A&D	10	AD-8626
17	工学実習室1	アナログオームテスタ	日置電機	20	IR4041-11
18	工学実習室1	回路網実習装置	島津製作所	3	100-180
19	工学実習室1	論理回路実習トレーナ	島津製作所	5	234-858
20	工学実習室1	低周波増幅回路実習装置	島津製作所	3	100-496
21	工学実習室1	小型冷蔵庫	アイリスオーヤマ	1	AF162-W
22	工学実習室2	手術ベッド	竹内製作所	1	TS-101
23	工学実習室2	スタックート人工心肺装置S5	リヴァノヴァ	1	遠心ポンプ含む
24	工学実習室2	心筋保護装置	泉工医科	1	TRUSYS
25	工学実習室2	冷温水層 HHC-300	泉工医科	1	HHC-300
26	工学実習室2	体外循環シミュレーションシステム	泉工医科	1	CPBワークショップ
27	工学実習室2	VAVDコントローラ	泉工医科	1	
28	工学実習室2	IABP駆動装置 BP-3	泉工医科	1	
29	工学実習室2	病棟用モニタ・セントラルモニタ	フィリップス	1	ntelliVueX3MMSintelliVueMXインプオメーションセンタIX
30	工学実習室2	手術室用生体情報モニタ(別案)	フクダ電子	1	DSC-8430
31	工学実習室2	救急シミュレータ人形 Sim Man ASL5000Lung Solution	レールダ	1	ASL5000Lung Solution

No.	部屋名	設備名	メーカー	数	型番・備考
32	工学実習室2	(人工呼吸器テック)Ventest	メッツ	1	
33	工学実習室2	GPS実習ユニットII	京都科学	1	
34	工学実習室2	電気メス SHAPPER Ai	泉工医科	1	
35	工学実習室2	電気メス アナライザー	泉工医科	1	
36	工学実習室2	モニター付き除細動器	ファイリップス	1	
37	工学実習室2	除細動器 DFM-100	ファイリップス	1	
38	工学実習室2	除細動器エネルギーチェッカー	日本光電	1	AX-103V
39	工学実習室2	メラサキキューム 電動式低圧吸引器	泉工医科	1	MS 009
40	工学実習室2	シリンジポンプ	テルモ	3	TE-3510・スタンドTE-815
41	工学実習室2	輸液ポンプ	テルモ	5	TE-2610・スタンドTE-831
42	工学実習室2	小型冷蔵庫	アイリスオーヤマ	1	AF162-W
43	工学実習室3	ペースメーカー	日本メドトロニック	1	AzureXT DR MRI
44	工学実習室3	ペースメーカー(両室ペースメーカー)	日本メドトロニック	1	Percepta MRI Quad CRT-P
45	工学実習室3	ペースメーカー(植込み型除細動器)	日本メドトロニック	1	Evera MRI XT DR
46	工学実習室3	ペースメーカー(リード)	日本メドトロニック	1	アチンパフォーマリード
47	工学実習室3	ペースメーカー(植込み型除細動器リード)	日本メドトロニック	1	クアトロMRIスクリーニングリード
48	工学実習室3	ペースメーカー(デュパリーカテーター、ガイドワイヤー、シース)	日本メドトロニック	1	各種
49	工学実習室3	漏れ電流子エックカー	日本光電	3	
50	工学実習室3	バルスオキシメーター New Radikal-7	Masimo	1	New Radikal-7
51	工学実習室3	点滴スタンド KC-508A	AXEL	5	KC-508A
52	工学実習室3	人工呼吸器	ファイリップス	1	トリロジュー O2plus
53	工学実習室3	フローアナライザー	アイ・エム・アイ	1	CITREX H5
54	工学実習室3	生体情報子エックカー	AXEL	1	ProSim8SP・アクセサリーキット
55	工学実習室3	ベッドサイドモニター BSM-3400 ライフスコープ VS	日本光電	1	BSM-3400 ライフスコープ VS
56	工学実習室3	電気メスアナライザ	メッツ	1	vPad-RF
57	工学実習室3	各種、蘇生バッグ成人、小児	アズワン	5	8-3456-01
58	工学実習室3	小型冷蔵庫	アイリスオーヤマ	1	AF162-W
59	工学実習室共通	直流電圧計(30V)	島津理化	12	
60	工学実習室共通	直流電流計(30mA)	島津理化	12	
61	工学実習室共通	オシロスコープ実習回路	島津理化	12	
62	工学実習室共通	磁気回路実習装置	島津理化	12	
63	工学実習室共通	電子回路実習装置	島津理化	12	
64	工学実習室共通	演算増幅回路実習装置	島津理化	12	

No.	部屋名	設備名	メーカー	数	型番・備考
		臨床工学分野小計		248	
		面分野共通			
1	工学実習室3	血圧脈波検査装置	フクダ電子	1	
2	工学実習室3	心肺・呼吸機能検査機器	日本光電	2	マイクロスバイロHI-302
3	工学実習室3	解析付き心電計(別案)	フクダ電子	4	FCP-8200
4	工学実習室3	脳波計	日本光電	1	EEG-1200
5	工学実習室3	心肺運動負荷試験	日本光電	1	トレッドミルSTM-2000
6	工学実習室3	運動負荷心電図装置	日本光電	1	STS-2100
7	臨床生理実習室	超音波診断装置 TUS-X100	キヤノン	2	中古品
8	臨床生理実習室	電子血圧計	アズワン	2	8-7214-21
9	臨床生理実習室	聴診器	アズワン	2	0-6798-05
10	臨床生理実習室	鼻腔・咽頭ぬぐい液採取モデル	京都科学	1	MW45
11	臨床生理実習室	味覚検査装置	リオン	1	TR-06A
		面分野共通小計		18	
		臨床検査分野			
1	臨床生理実習室	鉄製ベッド マットレス付き	内田洋行	5	8-700-1001
2	基礎実習室(解剖・基礎生理)	デジタル気圧計	アズワン	1	61-0003-12
3	基礎実習室(解剖・基礎生理)	組織解剖プレパレート	京都科学	5	12211-990
4	基礎実習室(解剖・基礎生理)	人体解剖模型	京都科学	1	11001-000
5	基礎実習室(解剖・基礎生理)	人体骨格模型	京都科学	1	11011-000
6	基礎実習室(解剖・基礎生理)	鼻腔・咽頭・喉頭模型	京都科学	1	11061-000
7	基礎実習室(解剖・基礎生理)	消化器系統模型	京都科学	1	11073-000
8	基礎実習室(解剖・基礎生理)	三臓模型	京都科学	1	11076-000
9	基礎実習室(解剖・基礎生理)	呼吸器模型	京都科学	1	11053-000
10	基礎実習室(解剖・基礎生理)	心臓構造模型	京都科学	1	11065-000
11	基礎実習室(解剖・基礎生理)	腎臓構造模型	京都科学	1	11085-000
12	基礎実習室(解剖・基礎生理)	泌尿器系統模型	京都科学	1	11088-000
13	基礎実習室(解剖・基礎生理)	採血・静注シミュレータ “シンジョーⅡ”	京都科学	10	11088-000
14	基礎実習室(解剖・基礎生理)	マルチ型ガス検知器	新コスモス電機	1	XA-4400 II
15	基礎実習室(解剖・基礎生理)	粉塵計	柴田科学	1	LD-5R
16	基礎実習室(解剖・基礎生理)	騒音計	アズワン	1	1-5817-01

No.	部屋名	設備名	メーカー	数	型番・備考
17	基礎実習室(解剖・基礎生理)	照度計	アズワン	1	1-5818-02
18	基礎実習室(解剖・基礎生理)	防水ポータブルマルチ水質ロガー	アズワン	1	1-2936-01
19	基礎実習室(解剖・基礎生理)	配線基板作成システム	島津理化	1	200-860
20	基礎実習室(解剖・基礎生理)	低周波増幅回路実習装置	島津理化	1	100-496
21	基礎実習室(解剖・基礎生理)	デジタルマルチメーター	アズワン	4	61-3515-90
22	臨床化学実習室	薬用冷蔵ショーケース	PHC	1	MPR-S313
23	臨床化学実習室	乾燥器	東京理化工機	2	WFO-1020W
24	臨床化学実習室	pH計	堀場製作所	1	F-71S
25	臨床化学実習室	電子天秤	島津製作所	2	AP324Y
26	臨床化学実習室	分光光度計	島津製作所	5	UV-1280(A0040)
27	臨床化学実習室	マグネチックスターラー	アズワン	4	1-4602-32
28	臨床化学実習室	PCR	タカラバイオ	2	TP350
29	臨床化学実習室	マイクロピペット(2.0~20 μ)	PipetPAL	10	PALP-20
30	臨床化学実習室	マイクロピペット(20~100 μ)	PipetPAL	10	PALP-200
31	臨床化学実習室	マイクロピペット(200~1000 μ)	PipetPAL	10	PALP-1000
32	臨床化学実習室	マイクロピペット用チップ(ラックタイプ)		10	111-R-Q
33	臨床化学実習室	蛋白屈折計	アズワン	4	7-5076-01
34	臨床化学実習室	デジタル尿比重屈折計	アズワン	2	61-0175-28
35	臨床化学実習室	薄層クロマトグラフィ	アズワン	10	2-688-01
36	臨床化学実習室	電気泳動装置	バイオラッド	10	1658000JA
37	臨床化学実習室	ポルテックスミキサー	Labnet	5	VX-200
38	臨床化学実習室	試験管ミキサー	アズワン	5	TRIO TM-1N
39	臨床化学実習室	冷却遠心機	トミー精工	1	5911
40	臨床化学実習室	ドラフト	島津製作所	1	GBH-Sc12-H1
41	臨床化学実習室	薬用冷蔵庫	PHC	1	MPR-N450FSH-PJ
42	微生物・寄生虫実習室	人体寄生虫模型	京都科学	1	12080-000
43	微生物・寄生虫実習室	薬用冷蔵ショーケース	PHC	1	MPR-S313
44	微生物・寄生虫実習室	振とう機	東京理化工機	5	MMS-3021, MMS BASE-L52
45	微生物・寄生虫実習室	生物顕微鏡	オリンパス	5	CX33-32
46	微生物・寄生虫実習室	インキュベーター	PHC	2	MIR-H263-PJ
47	微生物・寄生虫実習室	オートクレーブ	トミー精工	1	LBS-325
48	微生物・寄生虫実習室	薬用冷蔵庫	PHC	1	MPR-N450FSH-PJ
49	血液・免疫実習室	テーブルトップ遠心機(ローター込)	トミー精工	3	5300T

No.	部屋名	設備名	メーカー	数	型番・備考
50	血液・免疫実習室	冷却遠心機(ローター込)	トミー精工	1	15911
51	血液・免疫実習室	多項目自動血球分析装置	シスメックス	1	XP-300
52	血液・免疫実習室	ヘマトクリット遠心機	アズワン	2	3-7035-01
53	血液・免疫実習室	ウオーターバス	サ-モニクス	10	M3D-50E
54	血液・免疫実習室	マイクロピペット(2.0~20 μ)	PipetPAL	10	PALP-20
55	血液・免疫実習室	マイクロピペット(20~100 μ)	PipetPAL	10	PALP-200
56	血液・免疫実習室	マイクロピペット(200~1000 μ)	PipetPAL	10	PALP-1000
57	血液・免疫実習室	マイクロピペット用チップ(ラックタイプ)		10	
58	血液・免疫実習室	血沈測定器	アズワン	1	8-9774-01, 8-9774-11
59	血液・免疫実習室	数取器	アズワン	60	61-6172-13
60	血液・免疫実習室	ストッブウオッチ	アズワン	30	8-5960-01
61	血液・免疫実習室	薬用冷蔵庫	PHC	1	MPR-N450FSH-PJ
62	血液・免疫実習室	ガラスピペット 5ml	アズワン	50	19100050A(2-877-06)
63	血液・免疫実習室	ガラスピペット 10ml	アズワン	50	19100100A(2-877-07)
64	血液・免疫実習室	ガラスピペット 20ml	アズワン	50	19100200A(2-877-09)
65	血液・免疫実習室	三角フラスコ 1,000ml	アズワン	10	212165409(1-8849-06)
66	血液・免疫実習室	ビ-カー 1L	アズワン	10	2-5091-07
67	血液・免疫実習室	メスシリンダー 500ml	アズワン	10	1-8561-10
68	血液・免疫実習室	試験管立 ϕ 16.5mm x 50本	アズワン	40	H1018(1-8533-01)
69	血液・免疫実習室	漏斗 ϕ 100mm	アズワン	10	2-9171-07
70	血液・免疫実習室	薬さじ	アズワン	10	3003(61-4687-18)
71	血液・免疫実習室	ヘ-アードライヤ	カシムラ	10	TI-139
72	血液・免疫実習室	ディスプレイ	アズワン	1	99445-12
73	血液・免疫実習室	ディスプレイ	アズワン	1	99445-15
74	顕微鏡実習室	生物顕微鏡	オリンパス	40	CX33-32
75	顕微鏡実習室	ディスプレイ	オリンパス	1	BX53LED-C-45MDO-5 PLAPONSx
76	顕微鏡実習室	ディスプレイ	オリンパス	1	DP27-A
77	顕微鏡実習室	位相差観察スタンドセット	オリンパス	1	CKX53-22PH
78	顕微鏡実習室	簡易偏光ユニット	オリンパス	1	U-POT/ U-GAN
79	病理実習室	排気ボックス	島津製作所	6	WHX-W24特
80	病理実習室	滑走式マイクローム	大和光機工業	10	TU-213
81	病理実習室	パラフィン溶融器	ヒラサワ	1	SC-6d-CP
82	病理実習室	パラフィン伸展器	サクラファインテックジャパン	2	PS-53

No.	部屋名	設備名	メーカー	数	型番・備考
83	病理実習室	病理組織プレパラート	京都科学	5	12207-010
84	病理実習室	クリオスタット	ライカ	1	CM1520
85	病理実習室	パラフィン自動分注包埋センター	サクラ	1	TEC-P-S-JO
86	病理実習室	全自動密閉式ティンシュプロセッサ	サクラ	1	VJP-5-Jr-JO
87	病理実習室	インキュベーター	Thermo	1	IGS100
88	病理実習室	ウオーターバス	東京理化学器械	10	SB-350
89	病理実習室	ドラフト	島津製作所	1	GBH-Sc12-H1
90	病理実習室	パラフィン洗浄装置ヒストテックピエシーⅡ	サクラ	1	PC-II
91	病理実習室	ヒストテックピノ凍結ブロック作製装置	サクラ	1	PINO-600
92	病理実習室	排気ファン(ベンチレーター・防振架台含)	島津理化	3	
93	病理実習室	通式スクラバー・排気ファン・循環ポンプ	島津理化	1	
94	病理実習室	スクラバー用動力制御盤	島津理化	1	
95	病理実習室	サイトテック オートスマア2500	サクラ	1	CE-12E6CCF
96	実習準備室	純水装置ピュアイト	オルガノ	1	PRA-0015-001
97	実習準備室	PRA用20Lタンクユニット	オルガノ	1	
98	実習準備室	超音波洗浄器	アズワン	1	1-2160-05
99	実習準備室	乾熱滅菌	東京理化学器械	1	NDS-520
100	実習準備室	ステンレス薬品庫 SY-61(N)	内田洋行	1	8-125-0307
101	実習準備室	ステンレス薬品庫 SY-61(N)	内田洋行	1	8-125-0307
102	培養室	CO2インキュベーター(小型)	ASTEC	10	APC-30D
103	培養室	ボンベスタンド(CO2ボンベは別途)	アズワン	2	2-9199-02
104	培養室	乾熱滅菌器	東京理化学器械	1	NDS-520
105	培養室	クリーベンベンチ	日立	4	CCV-1306E
106	培養室	倒立顕微鏡	オリンパス	2	GKX53
107	培養室	超純水装置	オルガノ	1	UP-0090 α-TMI MF仕様 3Lタンク
108	培養室	α01用ディスプレイ	オルガノ	1	DS-α-001
109	微生物寄生虫研究室	pH計	堀場製作所	1	F-71S
110	微生物寄生虫研究室	生物顕微鏡	オリンパス	1	CX33-32
111	微生物寄生虫研究室	オートクレーブ	TOMY	1	LBS-325
112	微生物寄生虫研究室	インキュベーター	ヤマト科学	2	DKN812 DKN302
113	微生物寄生虫研究室	安全キャビネット	アズワン	1	AC2-3N7
114	微生物寄生虫研究室	薬用冷蔵庫	PHC	1	MPR-N450FSH-PJ
115	微生物寄生虫研究室	恒温振盪培養器	タイテック	1	BR-300LF

No.	部屋名	設備名	メーカー	数	型番・備考
116	病理実験室	オートクレーブ	アルブ	1	TR-24
117	病理実験室	オールインワン	キーエンス	1	BZ-X800 仕様③
118	病理実験室	電気ポット	タイガー 魔法瓶	3	PDR-G220
119	病理実験室	硬組織用替刃ホルダー 正宗	大和光機工業	1	BH-220
120	病理実験室	正宗専用刀固定器	大和光機工業	1	C-30
121	病理実験室	ドラフト	島津製作所	1	CBH-Sc12-H1
122	病理実験室	スマートウオーターパス 2.0L	アズワン	1	TB-1N
123	動物実験室	動物飼育装置	夏目製作所	1	KN-735A(ラット用5段)
124	動物実験室	オートクレーブ	TOMY	1	KBS-325
125	動物実験室	キャスター付き作業台	シンコー	1	WBC-7560-U75
126	フリーザー室	フリーザーフリーザー	PHC	4	MDF-DU502VHS1-PJ
127	フリーザー室	フリーザー(-30度)	PHC	3	MDF-MU339
128	フリーザー室	液体窒素容器	ASTEC	3	XT21
129	共用実験室スペース	pH計	堀場製作所	3	F-71S
130	共用実験室スペース	電子天秤	島津製作所	2	AP324Y
131	共用実験室スペース	電子天秤	島津製作所	2	AD125MD
132	共用実験室スペース	PCR	タカラバイオ	5	TP350
133	共用実験室スペース	マイクロプレートリーダー	サーモフィッシュヤー	1	アドバンス
134	共用実験室スペース	マイクロプレートウォッシャー	サーモフィッシュヤー	1	Wellwash Versa
135	共用実験室スペース	マイクロピペット(0.2~2.0 μ)	ギルソン(メーカー変更)	2	P2L
136	共用実験室スペース	マイクロピペット(2.0~20 μ)	ギルソン(メーカー変更)	2	P10L
137	共用実験室スペース	マイクロピペット(20~100 μ)	ギルソン(メーカー変更)	10	P20L
138	共用実験室スペース	マイクロピペット(200~1000 μ)	ギルソン(メーカー変更)	10	P100L
139	共用実験室スペース	マイクロピペット	ギルソン(メーカー変更)	10	P200L
140	共用実験室スペース	マイクロピペット	ギルソン(メーカー変更)	10	P1000L
141	共用実験室スペース	マイクロピペット	ギルソン(メーカー変更)	2	P5000L
142	共用実験室スペース	超微量分光光度計	サーモフィッシュヤー	1	NanoDrop One
143	共用実験室スペース	実体顕微鏡	オリンパス	1	SZX7-ILST-C
144	共用実験室スペース	生物顕微鏡	オリンパス	1	CX33-32
145	共用実験室スペース	リアルタイムPCR	LIJ	1	StepOnePlus 17ルネイム PCR システム PC付きパッケージ StepOnePlus-01
146	共用実験室スペース	ウオーターパス	サーモニクス	2	M30-50E
147	共用実験室スペース	冷却遠心機(ローター込)	トミー精工	2	5911
148	共用実験室スペース	オートクレーブ	トミー精工	1	LSX-500

No.	部屋名	設備名	メーカー	数	型番・備考
149	共用実験室スペース	ターブルトップ遠心機(ローター込)	トミー精工	3	5300T
150	共用実験室スペース	ポルテックスミキサー	Labnet	5	VX-200
151	共用実験室スペース	試験管ミキサー	アズワン	5	TRIO TM-1N
152	共用実験室スペース	電子レンジ	アイリスオーヤマ	1	IMB-T174-5
153	共用実験室スペース	薬用冷蔵庫	PHC	4	MPR-N450FSH-PJ
154	共用実験室スペース	製氷機	ホシザキ	1	FM-120K
155	共用実験室スペース	写真撮影装置	ATTO	1	WSE-5300LV
156	共用実験室スペース	pHメーター	堀場製作所	2	F-71S
157	共用実験室スペース	パルスフィールドゲル電気泳動装置	バイオラド	1	1703671JA CHEF Mapper XAチラーシステム
158	共用実験室スペース	微量高速冷却遠心機	TOMY	1	MDX-110
		臨床検査分野小計		795	
		総合計		1061	